

music
UP's

TAKE FREE!!
2022.9.20

Vol.215

聖飢魔II

SEIKIMA II

Interview ... GLAY オメでたい頭でなにより MORRIE DAIDA LAIDA メトロノーム
Editor's Talk Session ... 『音楽シーンのために裏方ができること』 / music UP's Q! ... 『あなたにとってのヒーローは?』

聖飢魔II

SEIKIMAI

こんなに聖飢魔IIらしいものが出せるのは幸せだと思う

魔暦元年(1999年)の解散以降初であるとともに23年振りとなる新大教典(アルバム)『BLOODIEST』。幅広さと上質さを兼ね備えた楽曲群は実に魅力的だし、新たな顔を見せていることも見逃せない。そのポテンシャルの高さに圧倒される意欲作について、ギタリストのルーク篁参謀とジェイル大橋代官に語っていただきました。



—23年振りとなる新大教典を作るにあたって、コンセプトなどはありましたか？
参謀:最初は特になかった。一番最初は再集結のたびに発売(リリース)してきた曲をまとめて、それだと物足りないので新曲も作るうか…みたいな話だったんだ。そういうところから始めて、時が経つにつれてだんだん肉がついていって、いろんな贅肉がついてきて、こういうことになったという感じ(笑)。
代官:自分たちで掲げたテーマみたいなものはなかったけど、曲出しをザアツとやっていって集まった曲を聴いた時に、制

作側からもっとアグレッシブにしてほしいというオーダーが入ったんだ。もっとアグレッシブな曲が欲しいと。その結果、より曲調の幅が広がったというはあるね。
—アグレッシブさが加わることで、『BLOODIEST』は聖飢魔IIの歴史や個性などを凝縮した大教典になったと感じます。自作曲を作るにあたって意識したことなども教えてください。
参謀:俺は最初に『MIGHTY PUNCH LINE』を構成員(メンバー)たちに出したんだが、自分が新曲を書く時に心がけているのが、もちろんいいメロディーだと

か、いいリフだといったこともあるけど、それにプラスアルファして、必ず自分なりのチャレンジがないといけないと思っているんだ。『MIGHTY PUNCH LINE』のリズムの感じとか、ドラムのリムショットから入るあたりとかは、今までやったことがなかったの、それがひとつのチャレンジだったというはあるね。
—『MIGHTY PUNCH LINE』は和太鼓のようなドラムや狂騒感のあるネイティブ感などが活かされていて、新たな聖飢魔IIの魅力を味わえます。それに、シニカルな視線でいながら前向きな歌詞も

いいですね。

参謀:やっぱりね、何か針は刺してやりたいという気持ちがあるんだ。楔は打っておきたいというか、だから、最終的にはいいことを言うにしても、その手前は刺しておきたくて、『MIGHTY PUNCH LINE』もそういう歌詞になっている。内容としては「らんなことがあるけど、最後にオチがつけばどうかなる」今が聴くてもオチがつかまで頑張りうぜ!」ということを歌っている。

—“こういう時代だからこそ明るく、前向きにこうぜ!”とストレートに歌うのではなく、参謀の悪魔柄が出ているのがいいなと思います。

参謀:ただ単に前を向け!“というメッセージを垂れ流すことには意味を感じないからな。そうやって自分なりのチャレンジや自分らしい歌詞を活かした『MIGHTY PUNCH LINE』をまず出したら、そのあとに曲について“もっとアグレッシブに”と言われて腹が空いて(笑)。“うるせえな。じゃあ、メタルに寄せればいいんだろ?”と思って出したのが『LOVE LETTER FROM A DEAD END』。でも、それは正解だったと思う。うまく乗せられたわけだけど、『LOVE LETTER FROM A DEAD END』がかたくなった時に、“確かに聖飢魔IIと言えばこうだよな”ということを感じたから。

—『LOVE LETTER FROM A DEAD END』はメタリックなナンバーですが、現代の音楽に相応しいスピード感が…

参謀:だよな! この曲は俺の中では、若いイメージがあるんだ。まだ若く頑張っているんだから、もうちょっと褒めて…みたいな(笑)。

代官:制作陣の注文どおりの曲という感じだよな。

参謀:そう。“うるさいなあ”と思ながら手のひらで転がされるという。

—代官も自作曲について話していただけますか？

代官:普段は“レコーディングしましょう”ということになると、よっしゃ!“という気持ちになって向かっていくんだけど、今はプライベートで全然曲を作るような状況じゃないんだ。時間がないし、マインドもまったく切り替わらない。曲の練習とかはでき

るけど、自分の内側とじっくり向き合って音楽を取り出すという作業はここ数年できていない。だから、今回の大教典の話が出た時に、俺は“曲を作れるかな?”というところから始まった。それで、最初は自分のストックの中から“これだな!”と閃いたものを1曲出して、もう1曲はなんとか書き下ろしたよ。そこそこ激しいポップさもあるという感じの曲だったんだけど、時間がなくて、そんなに追っ込んでいなくて、“これくらいで分かるでしょう”というデモを作ったら、やっぱり伝わらなかった。それで、“もっとアグレッシブなやつを!”というリクエストが制作陣からきた(笑)。

代官:“アグレッシブなやつか…。全然そんな気にならないんだけどな”と思っていたよ。その後、大教典を発売するタイミングが伸びて、当初は魔暦23(2021)年の秋という話だったのが、魔暦24(2022)年の秋ということになったんだ。その間ずっと曲作りを避けていたけど、制作陣は“もっとアグレッシブなやつを!”と言っていて、“忘れてねえな…”って(笑)。それで、とにかく昼間はもう無理だから夜から朝までの時間に集中してやって、なんとか『RUN RUN RUN!』ができたんだよ。

—『RUN RUN RUN!』はロックンロールが香るハードチューンで、王道的なメタルとはまた違った魅力を湛えている。

代官:王道的なメタルとかってカテゴリーはどうでもよくて、俺はどの曲もロールさせてる。全部ロックンロールだよ。

—『BLOODIEST』は作曲者それぞれの個性が顕著に出ることで楽曲がバラエティーに富んでいて、なおかつ完成度が高いというのは聖飢魔IIならではの。

参謀:どの曲もそれぞれの個性が現出していて、面白い構成員が揃っていると思うよ。ここにきて、こんなに聖飢魔IIらしいものが出せるのは幸せだと思う。
代官:『BLOODIEST』は作曲者が全部で7名いて、非常に個性の強い楽曲がひとつにまとまっても違和感がないというのは聖飢魔IIの面白いところであり、凄みだと思ふ。その中心には閣下の声と歌唱があって、リズムセクションもでかい。そのふたつがたがたになつて、いろんな世界をひ

とつにまとめてあげていると思う。
—同感です。ライデン湯澤殿下が書かれた『WHAT'S HAPPENING?』などは予想を超える世界観ですが、聖飢魔IIとして昇華されていますし。
参謀:彼が書く曲は、いつもすごい(笑)。
代官:でも、『WHAT'S HAPPENING?』のギターアプローチはルークが持ち込んだアイデアだろう？
参謀:そう。シューゲイザー風のアレンジは、ちょっと俺が思いついたところがあったからやらせてもらった。聖飢魔IIはそういうものを持ち込めるんだ。それに構成員がちゃんと応えられるというところがすごくて、ミュージシャンとしての懐の深さをそれぞれが持っている。

取材:村上孝之

okmusic

このインタビューの全文を公開中!!



『BLOODIEST』

Album 9/21 Release
Ariola Japan



【初回生産限定盤 A】
(CD+3Blu-ray)
BVCL-1240~3
¥13,200(税込)
(CD+3DVD)
BVCL-1244~7
¥13,200(税込)



【初回生産限定盤 B】
(2CD)
BVCL-1248~9
¥6,600(税込)



【通常盤】
BVCL-1250
¥3,300(税込)

music UP's a!

今月のお題:『あなたにとってのヒーローは?』

■ルーク篁参謀…クリス・フルーム

「クリス・フルーム氏というロードレーサーなのだが、彼は「ツール・ド・フランス」で総合優勝を4度果たし、5勝を目前に大きな事故に見舞われたんだ。しかし、今年復帰を果たして、大会で3位を記録した。どんなに大きな障害も乗り越えて、結果を残す彼はまさしくヒーローだと思う」

■ジェイル大橋代官…イチロー

「俺は野球も好きで、特にイチロー氏は大好きだよ。彼は野球そのものが大好きで、メジャーだろうが準野球だろうが関係ない。とにかく野球をこことん探求し、野球をエンジョイする。音楽において、自分もそうありたいと思うし、でもシンパシーを感じるから尊敬もしている」



TOMOO

1st LIVE TOUR 2022-2023 "BEAT"

- 福岡 22.12.16 (金) 18:00 DRUM Be-1
- 札幌 22.12.24 (土) 18:00 cube garden
- 名古屋 23.01.07 (土) 18:00 THE BOTTOM LINE
- 大阪 23.01.08 (日) 17:00 BIGCAT
- 東京 23.01.15 (日) 17:00 Zepp DiverCity(TOKYO)

10/1 (土)10:00よりチケット一般発売開始! 詳細は [ローチケ TOMOO](#) [検索](#)

ROCK BONDZ
WANDS × BREAKERZ

TOKYO 12/6 (火) OPEN 17:30 START 18:30 Zepp Haneda

OSAKA 12/13 (火) OPEN 17:30 START 18:30 Zepp Osaka Bayside

プレイガイド最速! プレリクエスト抽選先行 9/20 (火)10:00~10/2 (日)23:59
詳細は [ローチケ ROCK BONDZ -WANDS × BREAKERZ-](#) [検索](#)

楽祭 楽演

出演者
卓真(10-FEET) 高橋 優

10/26 (水) OPEN 18:15 START 19:00
昭和音楽大学 テアトロ・ジーリオ・ショウワ

9/24 (土)10:00よりチケット一般発売開始!
詳細は [ローチケ 別冊カドカワ×昭和音楽大学×A.C.P.C. 楽演祭 Vol.6](#) [検索](#)

公演・チケットの詳細は [ローチケ\(webサイト\)にて!](#)
<https://l-tike.com/> [検索](#)
※公演が中止・延期になる可能性がございますので詳細は各公演の公式HPをご確認ください。

CONTENTS

music UP's Vol.215 2022.9.20

■ Interview music UP's Q! ... 『あなたにとってのヒーローは?』



聖飢魔II



内田雄馬

- 0 聖飢魔II
- 4 GLAY
- 6 オメでたい頭でなにより
- 8 MORRIE
- 10 DAIDA LAIDA
- 12 メトロノーム
- 14 The Soap Girls
- 16 ゆいにしお
- 18 ムーンライダーズ + 佐藤奈々子
- 20 GOD & SIZUKU
- 40 高野麻里佳
- 42 ハコニワリリイ
- 44 白井悠介
- 46 牧野由依
- 48 内田雄馬

- 24 Pop'n'Roll Special Photo 聖菜
- 26 『MUSIC SUPPORTERS』 HERE SWANKY DOGS 平岡優也 irienchy Night Glory
- 30 Editor's Talk Session 『音楽シーンのために裏方ができること』
- 32 Editor's Note & Listener's Voice & 読者プレゼント
- 34 『Listener's Voice ~ Power To The Music ~』
- 37 楽器人 × music UP's SPECIAL FEATURE 『俺の楽器・私の愛機』
- 38 『Key Person』 May'n

※ music UP's は毎月20日発行です(地域により多少遅れる場合があります)。全国300カ所以上のライブハウス・新屋堂・TOWER RECORDS・HMV・disk union・音楽スタジオなどで配布しています。配布店舗はmusic UP'sのWEBをご覧ください。

© ジャパンミュージックネットワーク株式会社
本誌に掲載している記事、写真等の無断複製、複製、転載を禁じます。



■発行
ジャパンミュージックネットワーク株式会社
〒107-0062
東京都港区南青山6-10-12 フェイス南青山
TEL: 03-6712-6490

※広告に関するお問い合わせ
TEL: 03-6712-6579 (music UP's)

【発行人】
今井孝克

【JMN 統括編集長】
鳥丸哲也

【編集】
■ music UP's / OKMusic
・編集長 石田博嗣
・スタッフ 千々和香苗 岩田知大
・アシスタント 草野奈穂
■ BARKS
・編集長 梶原靖夫
・スタッフ 森本 智 星出智敬
宮川直子 堺 涼子 服部容子
高橋ひとみ 井上 舞
■ Pop'n'Roll
・編集長 鈴木健也
・スタッフ 鶴岡 舞 遠藤和奏 西角郁哉

【営業】
小田 新

【WEB】
田中功雄 瀬田拓己 宮東亮二

【ライター】
荒金良介 一条皓太 沖さやか
キャベトンコ 榎林史章 武市尚子
田山雄士 東條祥恵 フジジュン
帆刈智之 峯岸利恵 村上孝之
山口智男 山本弘子 土内 昇

【印刷】
昭栄印刷株式会社

music UP's サイト
<http://music-ups.jp>



GLAY

今、GLAYはどのような方向へ向かっているのか？

去る7月30日と31日、幕張メッセにてFC発足25周年記念ライブツアー『GLAY LIVE TOUR 2022 ~ We ♥ Happy Swing ~ Vol.3 Presented by HAPPY SWING 25th Anniv.』を成功させたことも記憶に新しいGLAYからニューシングル「Only One, Only You」がアライバル。表題曲では全世界を覆う2022年の空気に対して、彼らならではのメッセージで警鐘を鳴らしている。通算60作目という節目に相応しい力作について、HISASHI(Gu)に訊いた。



L → R HISASHI(Gu), JIRO(Ba), TERU(Vo), TAKURO(Gu)

—まず確認したいのですが、TAKUROさんから「Only One, Only You」がバンドに上がってきたのはいつ頃なのでしょう？ アルバム『FREEDOM ONLY』（2021年10月発表）のあとですか？

「TAKUROが作っているもので僕らが知らないものはいくらでもあって、『FREEDOM ONLY』で10年振りに開花した曲もあったりしたから、いつ頃にできたものかは分からないんだけど、メッセージを見る限り、今年の2月以降なのかなとは思いますが」

—具体的に言えば、ロシアのウクライナ侵攻が始まった辺りですかね。

「その頃ですね。『FREEDOM ONLY』のツアー（『GLAY ARENA TOUR 2021-2022 "FREEDOM ONLY"』）が終わったあと、いろんなお話があったので早く

制作作業に入ったんですけど、その中の一曲でした。カップリングの「クロムノワール」は決め打ちでテレビ東京系『WBSワールドビジネスサテライト』の曲として書いていて、『Only One, Only You』はそのあとで作ったのかな？」

—その時は60作目のシングル表題曲になることは決まっていたんですか？

「そういうことになるだろうなという感じだったと思います」

—HISASHIさんのファーストインプレッションはどうでしたか？

「『FREEDOM ONLY』もTAKUROのメッセージと世界観で纏られていましたし、GLAYの中ではこういう時期なんだろうと。そこで言うと、TAKUROの好きなように自由な感じで進めたほうが良いと思ったんですよ。バンド内でも“言いたい

こと、溜め込んでいることを全部、もうどんどん言ってください”みたいな雰囲気ではあって、『クロムノワール』と『Only One, Only You』は同一線上に並んでいるよね」

—第一印象でリーダーが今かたちにしたいものが詰まった曲だと分かったわけですかね。

「そうですね。コロナ禍ということもあったと思うんですけど、TAKUROはメンバーに早めに意図が伝わるように、最初から具体的な言葉を用意していましたね。“『007』”であったり、“Adele”であったり、そういうキーワードがあって、『HOWEVER』（1997年8月発表のシングル）の時もそうでしたね」

—イメージを早めにメンバー内で共有するため、リーダーから具体的なキーワー

ドが挙げられたと。

「はい。なんかTAKUROは『007』がずっと好きで(笑)、彼の人生の中ではわりとキャパシティー的に大きな位置を占めていると思いますね。だから、必然的にその流れで“Adele”という方向性が出てきたと思う」

—ちなみにTERUさん、JIROさんの「Only One, Only You」に対する最初の反応はどうだったか覚えてますか？

「どうだったんだろう？「クロムノワール」と『Only One, Only You』はTAKUROと亀田誠治さんとのプロジェクトみたいな感じで進めていたので、いかにTAKUROが持っている目標に近づけるかということ徹底して頑張っていたと思うんですよ」

—今言われたことも納得と言え納得で。これは私の感想ですが、「Only One, Only You」のようなTAKUROさんの主張の強い楽曲はこれまでもアルバムに必ず一曲はあったと思います。ただ、それがシングルになることはほとんどなかったため、今回はちょっと新鮮な驚きがありました。

「確かに。…分かりやすいというところと言えば、2曲目の『GALAXY』のほうが表題曲なんだろうね。TAKUROは“果たしてシングルって何？”というところにぶち当たったと思うんですよ。だから、今回は“今、GLAYはどのような方向へ向かっているのか？”という舵みたいなものになるかも」

—今回のシングルの表題作についてもう一点、TAKUROさんの歌詞に対してHISASHIさんが思うところを聞かせてください。

「フォーカスするポイントがTAKUROっぽい感じはしましたね。誰もか思っていることだと思っただけで、“これだけの情報社会の中で、本当にこの戦争を正義だと思ってるやっっているんだろうか？”って。もちろん自分が置かれている環境の中では正義なんだろうけど、その辺の憤りですかね。それを僕はどう考えても答えが出ないもので。だって、こちらは正義だと思っただけで、生まれた環境と置かれた立場

を考えるとひと筋縄ではいなくて。音楽で平和になるとも思っていないし、戦争が終わるとも思っていないけれど、小さな力で少しでも未来の行く末、その角度が数ミリでも変わってくれたらいいなという想いでやっているのは、僕もTAKUROと一緒にですね」

—（Only We Can Dream A Dream）というフレーズがありますが、個人的にこれはアーティストが言わなきゃいけないものかと思っただけで、HISASHIさんがおっしゃったとおり、これを演奏したからと言って、明日戦争が終わるわけではない。でも、夢は見続けなくちゃいけないし、言い続けなくちゃいけないと思うんです。

「そうですね。“音楽で変えられない”とは言いましたが、それが微力だったとしても、世界は変わってきたと思うんですよ。The BeatlesやThe Rolling Stones、全てのアーティストの力によって若者の気持ちは動いたと思うし、それを信じたいですよ」

—『GALAXY』はビートアレンジとCo-programmingに80KIDZというユニットが参加されていますが、その経緯は？

「『Into the Wild』（2020年8月発表のシングル『G4・2020』収録曲）のリミックスで参加していただいたのが直接的な最初の接点なんですけど、結構フェスとかでは一緒になっていて、もちろん80KIDZのことは知っていたし、リスペクトもしていて、今回は非常にいい機会でしたね」

—『FREEDOM ONLY』でのTomi YoさんやYow-Rowさんの参加もそうでしたけど、ここにきてGLAYはいろいろな方々とコラボレーションしていますね。躊躇がないと言いますか。

「そうですね。『GALAXY』は『FREEDOM ONLY』の中に入っていたとしても、きつと80KIDZと一緒にやっていたと思うんですよ。これもそんな自然な流れだし。『GALAXY』に関してずっと言っていたのは、この打ち込みサウンドをアリーナとかスタジアムとか大きなところで聴かせたい。ギターも全然細かいことはやっていないですから。実際、海外の野外フェスを観

ても“圧倒的なロックの魅力、説得力ってあるんだな”と改めて感じるし、それを信じたいと思ったんですよ。それには80KIDZのポップな打ち込みの揺るがない説得力が必要だった」

—『WE ♥ HAPPY SWING』についてもうかがっておきましょう。まさに会場にいるファンと一緒に盛り上がりたという想いが発揮されたナンバーですが、FC結成25周年記念ツアーのお土産として新曲を作って持っていくという行為自体がGLAYらしいですよ。それぞれに手癖を出した感じですか？

「曲に関しては、TAKUROも何でも良かったんだと思う(笑)。ある日、この曲の音源のツーミックスが届いたわけなんですよ。『HAPPY SWING II』（『HAPPY SWING』は1995年3月発表のアルバム『SPEED POP』に収録。また、GLAYのオフィシャルFCの名称でもある）という想いで作っていて、仮タイトルもそうだった」

—今後もFC限定ツアーで披露されていくナンバーなんですよね。

「幕張に絞って言うと、この曲はその日の記念撮影みたいなものですよ。その瞬間を切り抜いたという」

取材：帆刈智之



『Only One, Only You』

Single 9/21 Release
 LSG / PONY CANYON



【CD+Blu-ray 盤】
 PCCN-00049
 ¥2,750(税込)
 【CD+DVD 盤】
 PCCN-00050
 ¥2,750(税込)
 【CD Only 盤】
 PCCN-00051
 ¥1,650(税込)

music UP's a! 今月のお題：『あなたにとってのヒーローは？』

■高田純次
 「ヒーロー？ もうそれはひとりしかいないですね。高田純次さんです！ 生き様が軽やかじゃないですか。ご本人の努力もあると思う…まあ、それは僕の想像でしかないんですが、素敵な大人の佇まいだなと。一番最初は「天才・たけしの元気が出るテレビ!!」で観たのかな？ 破天荒で、バンクで…今ってコンプライアンスがどうのって言われているからそなのかもしれないけど、あのすつとふざけている感じが「ああ、そういう生き方をしてえな」って憧れますね(笑)」



← R ほにきんぐだむ (Gu&Vo), 324 (Gu), ミト充 (Dr), 赤飯 (Vo), mao (Ba)

あま オメでたい頭でなにより

今のご時世もあり、
これを表現しないと今後ふざげられない

— バリエーションに富んだ楽曲が揃ったと同時に、コロナ禍の影響も色濃く反映されたアルバムになりましたね。

赤飯: うん。そんなにメッセージもなく、ウェーイ! みたいな 1 枚目(2019年1月発表のアルバム『オメでたい頭でなにより 1』)があり…今作の変化については周りに影響を受けて、時代にも心を動かされていたんだと(笑)。自分たちからメッセージを込めようと考えていたわけではないので。結果的にこうなって、「うわっ!」となっちゃいました。

— 自分たちでも予想外だったと?

赤飯: そうですね。出来上がったものを聴いた時、「なんだ、このメッセージ性の強い曲たちは!?’って。

324: 今のご時世もあり、これを表現しないと今後ふざげられないなど。この気持ちを消化しないことには前に進めない。赤飯: 嘘はつけないもんね。だって、この状況下でつらくない奴なんておらんやろし、うちらも普通に人間だったという。— このタイミングで消化しなかった気持ちとは?

赤飯: 敗北感ですね。自分が一番弱いことに気づいて、それを上塗りする空元気もなかったし、それをそのまま表現したらこうなりました。Red Hot Chili Peppersの『CALIFORNICATION』が大好きなんですけど、あの作品には切ない敗北感が漂っていて、久しぶりに聴いたらドンビシャでハマっちゃって。

3rdアルバム『オメでたい頭でなにより3』は、これまでのオメでたい頭でなによりとはひと味もふた味も違う作風になっている。結果的にメッセージ性の強い楽曲が並び、人間味にあふれた作風がなんと愛おしい。喜怒哀楽の全てを凝縮した今作について、赤飯(Vo)と324(Gu)に話してもらった。

— 哀愁が漂う泣ける作品ですよ。

赤飯: そう! それ自分の中にもあるから、清々しく負けを認めて、そこからまた構築しよう。

— 赤飯さんが感じた敗北感とは何に対して?

赤飯: 時代、自分、メンバーに対してなど、あらゆるものですね。ライブが前のようにはできなくなり、ライブに特化した曲作りもできないし、そこから自分が致命的に足りないところと向き合うようになって、いざ曲作りに取りかかっても成果を上げられないから、そこで敗北感を感じたという。それで元気な曲なんて書けるかなくなって。諦めて手放して、今作が完成しました。

— その意味では過去作とは違う作品に

なりましたね。

赤飯: 1 枚目はパッパパーで、2 枚目(2020年4月発表のアルバム『オメでたい頭でなにより2』)は少し真面目になったほうがいいんじゃないかって。そして、この3枚目では敗北感と言ってるぐらいだから、全然トーンは違いますね。人間臭くなっちゃいました。

324: 3枚目のほうがより真面目だし、曝け出している感じはありますね。今は逆にふざげたくて、この作品のあとはどう楽しめるかに前向きに取り組みそうだなと。

— なるほど。今作では曲作りの方法も変わりました?

324: 全然違いますね。いろんな人の手を借りたり、maoはこれまで作詞作曲をしてこなかったけど、自分からやりたいと手を挙げましたからね。ミト以外は作詞作曲していますから(笑)。赤飯が思い悩んで曲ができなくなったので、周りが能動的になりました。だから、「この曲はこの人が主導権を握る」というのが明確になりましたね。今回はメンバーひとりひとりが深いところで主導権を握ったから、一曲一曲がバラエティーに富んだんだと思います。

赤飯: 自分が音楽的な主導権を握って制作することに慣れていて、自分にはこういう器がないのに、それでもかたちにしたいというビジョンばかりが膨らんでいましたからね。

— 楽曲単位でも話をうかがいたいのですが、「超クソデカマックスビッグ主語」は Slipknot のオマーージュを入つつ、今作の中ではかなりラウドな曲調ですね。

324: ヘヴィな曲は好きですがね。この曲があることでラウドロックの体裁は守られているかなと。これは僕が1から10までやった曲で、デモは2019年頃にあったものなんです。

— 歌詞はネット社会をチクリと刺し、息苦しい世の中を肉肉した内容ですよ。

324: そうですね。それをファニーに届けよう。

赤飯: 真っ直ぐ肉肉しているという意味で

は「すばらしい時代」もそうですね。このタイミングだから出てきた曲だと思います。高峰秀子さんの「銀座カンカン娘」を聴き、誰かが書いたレビューを読んで、Aメロの着想を得ました。あの時代は焼け野原やったけど、「ここからまた作っていいじゃない!」という希望にあふれていて。今の時代は物はあるけど、心が焼け野原になっていて、この状況は皮肉やなって。昔の人が今の時代を見たら何て言うのかなと。

— あと、「HAKUNA MATATA」はエレクトロ強めの新しい曲調ですね?

赤飯: KSUKE(DJ) / DANGER × DEER from コロナメモモ(マキシマム ザホルモン 2号店)にお願いして作ってもらったんです。今までのうちにはない世界観で、すごく面白い曲になりました。ライブでぽにきんぐだむがホイッスルを吹くんですけど、それもハマっているなど。初見さんでも楽しめるし。

324: サウンドがめっちゃいいよね。俺も打ち込みで作るけど、昨今のミクスチャーバンドはガチのトラックメーカーがいて…例えば Bring Me The Horizon もキーボード奏者が加入してアリーナバンドになりましたからね。この曲では俺たちに足りない部分を KSUKEくんが担ってくれました。

— 「プレジューズ」は赤飯さんが好きな歌謡テイストが色濃く出ていますね。

赤飯: それもありつつ、めっちゃめチャストレートな J-POP ですね。歌詞の内容は mao からお父さんへのお手紙という感じ。それを 324 がサポートして。これもうちらになかったテイストですね。

324: デモ自体は昔からあったけど、なかなかハマらなかったんですよ。今回、mao がこの曲で歌詞を書いてみたいと言いつたから。

— 《そばにいることは当たり前じゃない》というフレーズはコロナ禍にも通じる内容だね。

赤飯: 確かに。324 のアドバイスもあって歌詞はまとまったと思う。

324: 彼は初めての挑戦で拙い部分もありましたからね。“そこは全部説明しないでいいよ”みたいな(笑)。

赤飯: その流れで言うと、「意味ない歌」はシライシ紗トリさんにお手伝いしてもらったんですよ。

324: そう! アレンジだけではなく、作詞に関しても助言をいただいたんです。シライシさんは間口を広げて、キャッチーにすることが得意なんですよ。最初は自己の反省の曲で相手はいなかったけど、「明確に相手がいる?」と人に向けて挑戦してみました。その結果、ラブソングになったんです。

— この曲のヴォーカルはすんなりと歌えました?

324: めっちゃ悩んでいました。ヤバかったですね。

赤飯: そうね。300 テイクぐらい録って、取っかかりを掴みました。

324: 赤飯はエグイシャウトや女声で注目されているところもあるけど、そうじゃなくて、素のストレートな声で歌ってほしいかったですよ。

— 赤飯さんのリラックスした歌声がまたいいですね。

赤飯: ああ、それなら良かったです!

取材: 荒金良介

OKMUSIC
このインタビューの全文を公開中!!

『オメでたい頭でなにより3』

Album 9/28 Release
PONY CANYON



PCCA-06159
¥3,000(税込)

music UP's a!

今月のお題: 「あなたにとってのヒーローは?」

■赤飯…おほあちゃん

「カッコいいんですよ。御年 88 ですけど、LINE も使いこなしていて、スタンプも送ってくれるんです。いつまでも元気であり続けたいという意欲に満ちあふれているし、慈愛の精神がすごく。元気だと散々言っていたんですけど、そろそろ台所に立てなくなっちゃって話を聞いたので、この取材が終わったら会いに行って、肉じゃがを作ります。おほあちゃんにとってのヒーローに会いたいですよ!」

■324…おじいちゃん

「一代で林業の会社を興して、僕らの世代まで食べていけるくらいシステムを作って、地域にも還元したりしていて。早めに亡くなったんですけど、僻地の町でも志を持って生きていた人なんです。俺の記憶の中ではめちゃくちゃ厳しくて、小さい頃に尻を叩かれたことしか覚えていないのですが、おじいちゃんがやってきたことをあとから聞いたらすごくカッコいいなと思いました!」

MORRIE

DEAD END に対するひとつの区切りでありレクイエム

孤高のカリスマアーティスト・MORRIE が完成させたアルバム『Ballad D』は、DEAD END の楽曲から彼自身がセレクトした 12 曲をセルフカバー。2020 年に永眠した同バンドのギタリスト・足立 "YOU" 祐二に捧げる想いを込めたという今作は、シンプルな弾き語りを中心に多彩なアレンジが加わり、DEAD END サウンドの新たな魅力と彼の深いヴォーカルを堪能できる一枚になった。

— DEAD END のセルフカバーアルバムを作ろうと思われた、そのきっかけを教えてください。

「DEAD END は 10 年前の 2012 年 3 月に『DREAM DEMON ANALYZER』というアルバムを出して、その後 3 年ほどライブをやっていたんですけど、2015 年に

活動が止まっているんです。ちょうどその時期から弾き語りライブを始めて、自分のソロのレパートリーに加えて DEAD END の曲も何曲か取り上げていて、それから昔の曲を今の自分の歌で歌い直したいという想いは漠然とありましたね。仮に DEAD END の曲をやるならば弾き語り

的なものがないと思っていました。そんな中、2020 年 6 月 16 日にギタリストの足立 "YOU" 祐二が亡くなってしまった。それが今回のアルバムを作った一番大きな動機、直接的なきっかけですね。彼が亡くなったという想いは漠然とありましたが、仮に DEAD END の曲をやるならば弾き語り

— 完成した作品は完全な弾き語りではなく、アレンジがかなりバラエティーに富んでいますね。

「最初はシンプルな弾き語りを考えていましたが、実際にやるとなると、単純に面白くないなと思って、バンドアレンジで再現するのも違う。それで、DEAD END の数々のアルバムをプロデュースしてもらった岡野ハジメさんに話をしたんです。岡野さんは DEAD END に対する理解が深く、さまざまなアイデアで楽曲を面白いものにしてくれるだろうと。その時に話したのは、とにかくバンドではなく、基本はアコースティック。かと言って、アコギで弾き語りのようなシンプルなものでもなく…みたいな話を漠然としたり、岡野さんが乗ってくれました。実際に作業に入ってから、具体的なアレンジをギタリストの平田崇人と森永浩之さん、岡野さんに任せて」

— 今作は物語が始まるようなドラマチックな名曲『SERAFINE』でスタートしますね。

「『SERAFINE』は『ZERO』(1989 年 9 月発売)というアルバムの最後に収められていて、当時から人気のある曲で…RYUICHI (LUNA SEA) もカバーしてくれていましたね。今回は SUGIZO (LUNA SEA、X JAPAN) にエレクトリックギターでギターソロを弾いてもらっているんですけど、2013 年に DEAD END のトリビュートアルバム『DEAD END Tribute -SONG OF LUNATICS-』が出た時も彼は『SERAFINE』をやってくれていて、『SERAFINE』と言えば、もう僕の頭の中で SUGIZO のイメージがあるんです。全

編にわたって SUGIZO の好きにやってもらって、SUGIZO 特有のディレイ、浮遊感のある感じで、印象的なリフレインを弾いてくれていますね。ソロもオリジナルを踏襲しつつ、自分の味にまとめ上げられていて、非常にリスペクトを感じるソロだと思います」

— 2 曲目『EMBRYO BURNING』は大胆なアレンジが加わっています。

「いきなり即興演奏から始まっています。すごくシンプルな構成で、最初の思惑では全曲『EMBRYO BURNING』的なアレンジでいこうという考えがありました。結果的に、かなり多彩なアレンジになりましたが、重厚感というか、バンドでやっている原曲とあまり聴き劣りしないのが面白いところで、コード進行がちょっとスパニッシュなので、カットギターでスパニッシュ的なフレーズがあるところなどは、岡野さんがラテン音楽に精通しているからですね」

— しかし、どんなふうにアレンジを変えても『EMBRYO BURNING』の持つ空気感は変わりませんか。

「最初はシンプルな弾き語りを考えていましたが、実際にやるとなると、単純に面白くないなと思って、バンドアレンジで再現するのも違う。それで、DEAD END の数々のアルバムをプロデュースしてもらった岡野ハジメさんに話をしたんです。岡野さんは DEAD END に対する理解が深く、さまざまなアイデアで楽曲を面白いものにしてくれるだろうと。その時に話したのは、とにかくバンドではなく、基本はアコースティック。かと言って、アコギで弾き語りのようなシンプルなものでもなく…みたいな話を漠然としたり、岡野さんが乗ってくれました。実際に作業に入ってから、具体的なアレンジをギタリストの平田崇人と森永浩之さん、岡野さんに任せて」

— アルバムの最後を飾る『冥合』の原曲は宇宙を感じる壮大なナンバーですが、今回は本当に削ぎ落とされて、パーソナルな感じを受けました。

「この曲は僕が DEAD END の全曲の中で、ある意味一番思い入れがあるんです。だから、どうしても入れたかった。2009 年に 20 年振りに復活して、その年の 11 月に『METAMORPHOSIS』を出したんですけど、『冥合』はそのアルバムの最後の

曲なんです。『GHOST OF ROMANCE』(1987 年 9 月発表のアルバム)の最後に『SONG OF A LUNATIC』という壮大な曲が入っていて、2009 年に『METAMORPHOSIS』を作っている時、僕は YOU ちゃんに『SONG OF A LUNATIC パート 2』みたいな曲を作ってくれない? とリクエストをしたんですよ。普段はそんなことをしないんですけど、それでできたのがこれ。デモテープを聴いた時から『すごい曲だな』と思いましたね。曲自体が持っているパワーというか、ツボみたいなものがあるって、そこが来たらダメですね。そういうところがあるじゃないですか。この曲のここが来たら、もう泣いてしまふ(笑)。鳥肌が立つとかね。DEAD END の何曲かにそのようなポイントがあって、『冥合』はある個所が来ると、ものすごく震撼させられるんです。持っていかれてしまう。曲もすごいんですが、プレイも『METAMORPHOSIS』がドラムが MINATO (DEAD END の旧メンバー・湊 雅史) で、あれは彼にしか叩けないと思います。『冥合』は潜在的な可能性をもっとく秘めているので、機会があれば挑んでみたいと考えていて、ソロのバンドで一回やりましたし、弾き語りでも何度かやりました。今回はアレンジを頼んでみて、これはこれでより曲の純粋さを引き出した感じに仕上がったと思います」

— MORRIE さんの声も、まるで隣にいるような体温を感じる印象でした。

「アコギもほとんど一本で朴訥とした感じで始まって、他の曲ではあまりやってないんですが、サビとかも普通のストロークで非常にシンプルな感じ。僕は基本的に歌う時はある対象がいて、それをいろいろなフィルターを通しつつ、抽象的にまとめ上げるので、あからさまな歌詞は書かないんですけど、その人に向かって歌うことが多いです。この曲も明確に対象がいるわけですが、そういう意味ではパーソナルで隣にいるみたいというのは、まさしくそんな感じかもしれません」

— 『Ballad D』という作品は MORRIE

さんにとってどんな意味を持つアルバムになったと思われますか?

「最初のほうで言いましたが、足立 "YOU" 祐二が亡くなったがゆえに踏みきって作ったところがあるので、やはり僕の中で DEAD END に対するひとつの区切りではありますね。彼に対するレクイエムみたいな部分はすごくありますし。これは岡野さんも言うておられましたけれど、録っている間中、ずっと足立 "YOU" 祐二のことが頭にあって、作るにあたって何十年か振りに DEAD END の全てのアルバムを通して聴いたりしているとか、どうしても追憶的になるというか。ギターにしても、あれだけのギタリストですから並大抵なプレイヤーは呼べないじゃないですか。もちろん岡野さんが最高のおふたりを呼んでくれましたけれどね。SUGIZO にしても、咲人 (NIGHTMARE、SEESAW) にしても、ヘザーにいても、足立さんに対するリスペクトは深いので。全てを含めて、何かひとつのけじめ的なものは作れたかなという気はしますね」

取材: キャベトンコ



このインタビューの全文を公開中!!



『Ballad D』

Album 9/7 Release
little HEARTS.Music



【Regular Edition】(CD)
LHMH-2019
¥3,500 (税込)



【Special Edition】
(CD+DVD+フオック)
LHMH-2020
¥10,780 (税込)
※初回限定盤

music UP's a!

今月のお題: 『あなたにとってのヒーローは?』

■デビルマン

「『ヒーロー』という言葉は、僕は人生で一回も使ったことがないんですよ。その時代その時代で自分が好きな対象はありますが、ヒーローに値するような人はいないです。でも、子供の頃、デビルマンは好きでした。漫画でもアニメでもヒーローは地球のために『悪』と戦っていて、子供ながらにそういうものが面白くなかったのですが、デビルマンはデーモン一族の裏切り者で、人間の女の子を好きになってしまったから、その子のために悪魔と戦うんです。アニメの主題歌では『正義のヒーロー』って歌われていたけれど、すごくパーソナルな理由で戦っているんだから、子供ながら『全然正義のヒーローちゃん』って思っていました。そういうところ共感しているものがあったけど、それを自分にとってのヒーローと言っていいのかな(笑)。「超強いて言えば」ということで、デビルマンですね」

DAIDA LAIDA

10周年を飾るアルバムは昔の曲と新曲というハイブリッド形態

2012年に始動し、以降独自の音楽性で多くのリスナーを魅了し続けている DAIDA LAIDA が結成 10 周年を記念するアルバム『一閃』を完成させた。キャッチー&テクニカルという彼らの個性が詰め込まれた同作は、幅広い層にアピールする魅力にあふれている。10年を経て、さらに魅力を増している彼らのメンバー全員インタビューをお届けする。



L → R MASAKI(Ba), KENTARO(Gu), NoB(Vo), JOE(Dr)

——「一閃」の制作に入る前、どんなことを考えていました？

MASAKI:今回は明確なテーマがありました。ひとつは10周年ということ、もうひとつはKENTAROが加入して5年くらいなんですね。KENTAROが入る前に作ったアルバムが3枚ありまして、その中には今でも演奏している曲があって、10周年を飾るアルバムは、そんな今でもやる昔の曲をKENTAROのギターに差し替えたものと新曲というハイブリッド形態にしたいという構想があったので、2年前からいりからギターを録り直していたんです。それに並行してそれぞれが新曲を作っていて、それをひとつにまとめたのが今回の「一閃」というアルバムです。

——では、「一閃」に収録されている楽曲の中で、それぞれ特に印象の強い曲を挙げるとしたら？

MASAKI:僕はMV曲にもなっている「象牙色の嘘」になりますね。僕が今回のアルバムに向けて最初に書いた曲で、まさにDAIDA LAIDA 調な気がするんですよ。ちょっと速めのテンポで、シンコーペションを効かせたビートで、しっかりしたメロディーで、それぞれのソロもあって、テクニカルなユニゾンもあって…ということ。Aメロをスタイリッシュな感じにしたことや最後はLed Zeppelinみたいになってフェードアウトしていく構成も含めて、僕の中でイチオシ曲です。

——「象牙色の嘘」の歌詞は“もっと強い

心を持った人になりたい”ということを感じていますね。

NoB:最近、メッセージソングを書きがちなんですよ。コロナ禍や戦争とかいろいろなかがあるから、歌を届ける身として“この頃はこんな出来事があったんだ”ということを残す仕事も多少はしないとイケないのかなと。でも、そればかりだと説教くさくなってしまわないですか。だから、そこに気をつけつつメッセージソングをいくつか入れたっていう想いがある。「象牙色の嘘」はその中の一曲です。今の世の中は同調圧力が強かったり、テレビが言うことを鵜呑みにしている人がたくさんいたり、マスコミが作った“当たり前”にみんなが押し流されていったりして、自分を持ってなくなって

しまっている人が少なくないと思うんですよ。でも、自分らしくあってほしい。「象牙色の嘘」にはそういう想いが込められていて、《調教師になりたい》というのは「嘘に惑わされずに真実を見極められる能力が欲しい」ということを表しているんです。

——確かに今は情報があふれている時代なので、正しい情報を取捨選択することを意識しないと危険だと思います。

NoB:そういう時代ですよ、残念なことですけど。で、僕が「一閃」の中で特に気に入っているのは「薔色の月」です。今回初めてKENTAROにバラードを書いてほしいとお願いしたら、やっぱりギタリストにしか作れない曲を書いてきてくれて、ものすごく新鮮だったんです。ガットギターから始まって、激しくなって、そこから違う展開になり、また静かになって終わるという構成はギタリストならではの感じがする。展開が多くて、レコーディングは大変でしたけど(笑)。

KENTARO:毎回NoBさんがバラードを書いて歌うというスタイルだったんですけど、前回のアルバム(2020年8月発表の『綴』)を出したあとに、NoBさんに“次はケンちゃん(KENTAROの愛称)がバラードを書いてみて”と言われてたんです。普通に“ザ・バラード”みたいなものだとは違いますが、あまり出ないと思ったので、どんどん展開していかちました。ただ、長い曲になってしまうのは避けなかったから、自分の中でいい具合にまとめたのが今のかなんです。「薔色の月」は今まで自分が作ったものとは違って新鮮だし、手応えも感じて、今回の中で印象的な一曲を挙げるなら、僕もこの曲になりますね。

NoB:「薔色の月」の歌詞はさっさも話したように、この曲は頭でガットギターが鳴っていて、あの音がなかったら、こういう歌詞は書けなかったと思う。ガットギターの音色を聴いていたら、古い言葉を使った日本語の歌詞というのがバツと閃いたんです。百人一首とかに多いじゃないですか、遠く離れた人を思ったりするものが、そういう雰囲気を出したいと思いながら歌詞に取りかかったら、もうサラサラッと一気に書けました。

——JOEさんはいかがですか？

JOE:気に入っている曲…「瑠璃色の空」かな？1曲目のSEからつながる実質的なアルバムのオープニングに相応しい力を持った曲だと思うから。この曲を一番最初に聴いた時、最近の要素というか、ブルータルな感じが取り入れられていると思ったんですよ。その上でテクニカルな部分だったり、DAIDA LAIDAらしさも含まれているので、この曲がイチオシですね。

KENTARO:「瑠璃色の空」はわりと僕の中では王道というか、ライブで盛り上げられることをイメージして作りました。この何年かお客さんが座っていたり、声も出せない状況の中でずっとライブをしてきているので、コロナ禍が明けたら真っ先にライブでやりたい曲を作りたいと思ったんです。演奏した時に自分たちの気持ちが高まって、お客さんもワァーッと盛り上がることをイメージして作りました。

NoB:「瑠璃色の空」の歌詞は、明るい曲だし、ライブのオープニングでやるくらいの勢いがあるというところで、ストレートなラブソングにしました。

——激しい曲なので強いことを歌っているかと思いきや、実は甘いラブソングというのはいいなと思います。

NoB:俺は歌詞のコンセプト的なものはまったく決めていないから、曲のイメージ

で思い浮かんだものをバァーッと書いてしまうんですよ。どんなテーマであれ、自分が書けば全部NoB節になると思っているから、細かいことは気にせず歌詞は書いています。

——それがいい結果を生んでいると思います。それにしても「一閃」は個性と良質さを併せ持った楽曲が揃っていて、こういうバンドであれば10年続くのは必然だと感じました。

NoB:10年続けられるバンドというのは、なかなか最近ないですよ。

MASAKI:しかも、自分たちはコンスタントに活動をしてきたんですよ。リリースも定期的にして、昨年はアコースティックアルバム(2021年10月発表の『Hello,Hello again』)を出したりしていますし、ちゃんと年に2回は東名阪ツアーをやってきました。“ダラダラと続けていたら10年経った”ではなくて、タイトな活動を重ねてきた上での10周年というのは意味があると思いますね。

取材:村上孝之

okmusic

このインタビューの全文を公開中!!



「一閃」

Album 9/7 Release
Walküre Records



[Deluxe Edition] (2CD)
WLKR-0066 ~ 7
¥4,620 (税込)
[通常盤] (CD)
WLKR-0068
¥3,300 (税込)

music UP's a!

今月のお題:「あなたにとってのヒーローは?」

■ NoB…坂本龍馬

「僕が一番カッコイイと思って憧れた人は坂本龍馬。仮面ライダーなどのヒーローものアニメとかも観ていましたけど、やっぱり坂本龍馬ですね。肝っ玉のでかさとか、自分にもないものばかり持っているから、それはもう必然的に憧れますよ。MAKE-UPの時、坂本龍馬を題材に曲を書いたこともあるし(笑)。中学生くらいの頃から好きで、「龍馬がゆく」は愛読書で…全8巻かな? 20周くらい読んでいます」

■ KENTARO…高崎 晃(LOUDNESS)

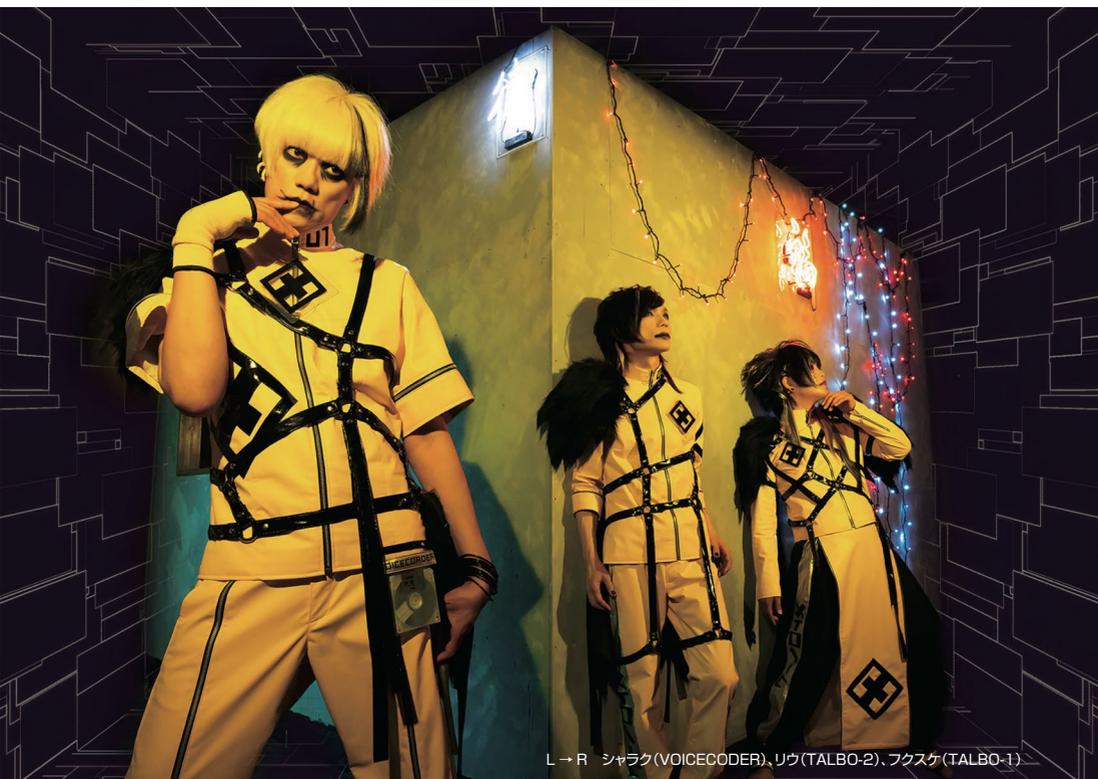
「憧れも尊敬もあるし、“自分もあになりたい!”と人生で初めて思ったのが高崎 晃さんで、小学6年生くらいの時…だから、ウルトラマンやガンダムとLOUDNESSは一緒に好きなんですよ(笑)。中学に入ったからドラムを始めるつもりだったのに、[THUNDER IN THE EAST](1985年1月発表のアルバム)のギターの音を聴いて“ギターをやる!”と思いましたから。“ギターを弾きたい”よりも“この音を出したい!”って。それは今も変わらないですね」

■ MASAKI…千葉真一

「異常に千葉真一さんが好きなんです。『影の軍団』や『柳生一族の陰謀』…いわゆる時代劇なんですよ、すごい好きだったんですよ。『キル・ビル』とかの出演作品のDVDとかも持っているし。たまたまなんですが、僕の行きつけの焼き鳥屋さんの店員たちが千葉さんが設立したジャパアクションエンタープライズ所属で、ANIMETALの時に共演してもらったことがあるんですよ。それくらい好きです!」

■ JOE…ルフィ

「2002年にDASEINで[ONE PIECE]の映画の主題歌をやらせられた時に初めて知って…それまで知らなかったんですけど、その時に読み始めたらハマっちゃって。仲間を大切に思うところだったり、絶体絶命になっても諦めないでなんとかしてしまおうところとか…普段はちゃらんぼらんで非常識だし、何を考えているのか分からないような感じなのに、戦いになるとダントツの強さを発揮するっていう。ルフィはまさにヒーローですね」



L-R シャラク(VOICECODER)、リウ(TALBO-2)、フクスケ(TALBO-1)

メトロノーム

自分的には今作はとてもメトロノームらしいと思っている

シャラク(VOICECODER)、フクスケ(TALBO-1)、リウ(TALBO-2)の三人三様の個性が集結した楽団群は彩り豊かで、メトロノーム宇宙の中にいざなわれるアルバム『阿吽回廊』。現実世界はいろいろな世知辛いけれど、脱力させてくれて深呼吸させてくれる彼らの音楽はコミカルで、シニカルで、やっぱり面白い。

—アルバムはインド音楽の要素が盛り込まれた摩訶不思議なインスト「阿吽回廊」で始まります。よく「阿吽の呼吸」と言いますが、「阿吽回廊」ってどういう意味ですか？

フクスケ:「阿吽」にはいろいろな意味があって、「宇宙の始まりと終わり」を指す場合もあるのでもいいかなって。「回廊」はツアーが回れるようになるという想いが片隅にあったから出てきた言葉なんですけど、僕たちってあちこちジャンルを行き来したりしないでメトロノームっていう世界の中をしゃかり回っているの。中身は変わっていくんだけど、やっていることの軸は変わらないというか。

—メトロノーム宇宙を回遊するみたいなイメージですね。インストが回廊の入口

のようなポジション？

フクスケ:そうですね。1曲目にリード曲「アツとして吽」が入ることが決まっていたので、インストからきれいにつながるようにと。

—「アツとして吽」はエレクトロでポップで、途中からミュージカルの展開をする曲でもありますね。

シャラク:ライブ会場限定販売シングルの曲出しの時に作った候補曲のひとつで、急遽サビをつけ足して完成させたんです。タイトルは「阿吽」という言葉を思い付いたんですけど、そのまんまなのもなと思って「アツとして吽」にしてみたという。

—人生残り少ないんだからっていうワタリのとに《最後に笑えるなら／それが一番面白いじゃん》っていう妄想ですと

歌っていますが、「っていう妄想です」とつけ足すのがシャラクさんらしいです。

シャラク:「よっしゃ！やるぞ！」となったでも「なんちゃって」で誤魔化すというか(笑)、意味があるようなことを歌っておいで「実はそんなこと思ってないっす」みたいな。《アツとして吽とこどっこいしょ》というフレーズも、「うんとこどっこいしょ」が最初にあって足しただけなんです。歌詞にはいつも深い意味を持たせたくないと思っています。

—サウンドもピアノやホーンも入っていて華やかですね。

フクスケ:サビがなかったデモの段階では「この曲で大丈夫か？」と思っていたんですけど、キングレコードの齋藤さんという方が「この曲でいこう！」って。きつと何か

が見えていたんでしょね。そしたら、いいサビがついて、ピアノが乗かって、お洒落になったんですよ。だから、一番素晴らしいのは先見の明があった齋藤さんだと思います(笑)。

—アルバムにはスピーディで勢いがあるのにサビのメロディーはキャッチーでさわやかさすらある「失敗だ傑作だ」、ファンタジックな世界観の「シナスタジア」が収録されていたりと、メトロノームのテクノポップなサウンドをベースにパリエーションに富んだ曲が収録されていますが、お互いに驚いた曲や新鮮だった曲はありますか？

シャラク:7曲目の「夢の始まり」はサビがカッコ良くなって。

—イントロにジミ・ヘンドリックスばりのギターが入ってくるフクスケさんの曲ですね。

シャラク:今まで手持ちのマイクで歌っていたんですけど、ライブでマイクスタンドを使って歌いたっていう想像が広がった曲ですね。サビのギターサウンドがすごくロックな感じで個人的好きです。

フクスケ:僕は「カルマ」です。間奏で信じられないぐらいにカッコ良い僕のギターソロが出てくるのですが、そこでテンポチェンジするので「俺がカッコ良いソロを弾くためにアレンジしてくれたんだな」って(笑)。「リウ、ありがとう！」っていう気持ちですね。

リウ:本当はもっとループを足そうと思っていたのですが、想像を超えるギターソロを入れてくれたので、間奏はシンプルなアレンジにしました。ライブで首の音が楽しみですね。テンポチェンジだけじゃなく転調もかなりしていて、ちょっと変わった雰囲気にしたと思って作った曲です。

—リウさんから見て新鮮だった曲は？

リウ:会場限定発売と先行配信された「アツとして吽」ですね。当初はエレクトロベースを弾いていたんですけど、MV撮影の時に齋藤さんから背景のセットを考えるとアップライトベースのほうが合うと思うって提案されたので、シャラクくんの承諾を得てアルバムでもアップライトを弾いています。フレーズは同じでも楽器の性質が全然違うので、ふたつのバージョンが楽しめるんじゃないかと。

—歌詞だと「夢の始まり」「少年」が切ないゾーンですね。

リウ:曲順は僕がアイデアを出したんですけど、最初に言われたようにいろいろな色の曲が揃っているので、一気に聴けるように構成を考えたら、その2曲は後半になったんですよ。アルバムのクライマックスは7曲目から9曲目の「夢の始まり」「少年」「明日もきっとやってくる」の3曲なんじゃないかと思います。

—そんなセクションを挟んで最後はシャラクさんの書いたパンキッシュな「日常的の帰結」と「あゝ諸事情」で締められるという。

シャラク:「日常的の帰結」はパパッと作るとういう曲になるんですよ。とにかく速い曲が好きなので、シンプルで自分の基本となる曲なのかもしれないですね。

—「あゝ諸事情」の最後の歌詞は《屈を待ってはまた日が暮れる》なので、この言葉でアルバムが終わるんですよ。

シャラク:語りが入った曲が欲しいと思って作ったんです。サビがあることによって普通の曲になっちゃったかなと思ったんですけど、いい感じのバランスになったのかもしれない。

フクスケ:個人的には今作はとてもメトロ

ノームらしいと思っているので、そこまで誰かの気持ちに乗っかっていない気がするんですよ。「あゝ諸事情」を聴いた時、こんな曲でアルバムが終わるバンドってなかなかないと思ったんですけど、「ああ、これでもいいんだな」って。と同時に「終わっちゃった」みたいな余韻もあるので、これはメトロノームじゃないとできないなと。イントロがチツツチと鳴って始まるのは「ここ必要な？」って思いましたけど(笑)。

リウ:うん、思った(笑)。
フクスケ:でも、そういうところがメトロノームらしいんですよ。本当に回遊って感じしますね。

取材:山本弘子



このインタビューの全文を公開中!!



『阿吽回廊』

Album 8/24 Release
KING RECORDS



【初回限定メロ箱仕様】
(CD+Blu-ray)
KICS-94079
¥7,700(税込)



【通常盤】(CD)
KICS-4079
¥3,300(税込)

music UP's a!

今月のお題:『あなたにとってのヒーローは?』

■シャラク…長江健次

「ヒーローとはちょっと違う…ヒーローってカッコ良いイメージなんですけど、子供の頃にイモトトリオがすごく好きだったんですよ。それでアイドル歌手になりたいと思ったことが「歌いたい」と思ったことの原点だと思ってる、そう考えると自分のヒーローは長江健次さんなのかなって。だから、真ん中が好きなんじゃないかな(笑)。自分の楽曲でも「なー！」って言う部分もあるし。僕はライブとかで「うおー！」っていう男らしい雄叫びが言えなくて「なー！」ってなるのですが、それは長江健次さんの影響かもしれないですね。あと、イモトトリオが好きだったことが、打ち込みの音楽を聴くきっかけにもなったんじゃないかな？」

■フクスケ…寅さん

「昔からすごく好きで、「男はつらいよ」の映画もいっぱい観ているし、生き方からダメな部分まで大好きなんです。僕にとってのヒーローは寅さんですね。自由に暮らしているかと思いきや意外と自由でもないし、結構戻ってくるし、戻ってきたら戻ってきたでダメぶりがすごい…そういうところが好きなんです。業にも行ったり、寅さんが首からかけているお守りも持っています。昔は寅さんのようになりたいって思っていましたからね。でも、年齢が上がるってそれじゃいけないんだなって気づくっていう(笑)」

■リウ…フリー (Red Hot Chili Peppers)

「メトロノーム以外の現場でアドリブで弾くことが多くて、だんだんそれにハマってきていて、どうしてそういうものが好きになったのかなと思ったら…まあ、ベタなんですけど、昔よく Red Hot Chili Peppers のライブ映像とかを観ていたから、その影響を受けていると考えると、フリーが自分にとってのヒーローだなんて思っていますね。今もあの年齢であんなに頑張っている姿を見ると勇気ももらえるし、すごく自由にプレイしているので、自分もそうなりたっていたんだと思いはじめたというか。メトロノームは同期だからできないんですけど、他の現場でそういうプレイを求められることが多くなったんですよ。だから、今、すごく楽しいですね」

The Soap Girls

ケープタウン発の姉妹パンクバンドが最新アルバムを掲げて初来日!

抜群のプロポーションと過激な立ち目に目を惹かれる The Soap Girls。南アフリカ・ケープタウン出身の姉妹パンクバンドであり、“とにかく自己流でみんなを楽しませたい!”と声を弾ませる彼女たちが、アルバム『私の本当 / IN MY SKIN』を引っ提げて初の来日ツアーを開催! 誰もが持つ想いをキャッチーなロックサウンドに乗せて歌い、観る者を手放して楽しませるふたりにインタビューを実施した。

— ふたりは子供の頃から音楽が好きだったんですか?

ミリー&ミー: ダイスキデス!

ミリー: ハードロックもグランジもオルタナティブロックもメタルもパンクも聴く。とにかく音楽は大好きで、私もミーもグランジが特に好き。

ミー: グランジは本当に最高! 音楽好きはママの影響で、小さい頃から家ですずと音楽が流れていたの。それもグランジが多くて、その頃に聴いた音楽はずっと好き。The Soap Girlsの曲の基盤はそこにあるって言えるわ。

— 最初はアイドルユニットとして活躍していたんですよね?

ミリー: そう! とにかく人を楽しませたいという想いで活動を始めて、最初はとても楽しかったし、応援してくれる人たちもたくさんできて、すごく幸せだった。でも、限られた表現の中で発信しなくてはいけないという壁を感じたの。

ミー: 自由に表現できる場所を探したいと思うようになって、別の道を選びたくなった。

ミリー: そう感じるようになったのはふたり同時だったわ。

ミー: 小さい頃からずっと一緒に育ってきたし、本当に仲が良いから、私たちの考えはだいたい同期しているの。

— アイドルからパンクバンドへと転身することに不安はなかったですか?

ミリー: なかったわ。とにかくやりたいことをやるべきだと思った。

ミー: 自分の人生だからね。後悔するような生き方をしちゃう。ちゃんと自分と向き合わなくちゃ!

— The Soap Girlsの歌詞は自分で書いてるんですよね?

ミリー&ミー: もちろん!

— ちょっとデビルなところと天使なところがあるのは、やはり悪魔がミリーで天使がミーの担当?

ミリー: どっちが書いてるってわけでは

なくて、だいたい一緒に書いているの。

ミー: たまに“ここは私が書くね”って担当する部分が多くなったりはするんだけど、作詞作曲と一緒にやるというところはこだわりの部分だから、いつもそうしているわ。

ミリー: 作詞作曲、レコーディングまでを全部一緒にやるっていうのが、私たちのルールでもある感じ。

— そんな楽曲に対して絶対に曲げたくない部分は?

ミリー: とにかくうるさいほうがいいわ!(笑) 派手なのがいい!

ミー: 楽しいことが一番よね! 元気にしたいの!

— 歌詞にはどんな想いを込めることが多いですか?

ミリー: “自由”というところね。

ミー: そう! 人はみんな自由であることを伝えたいの。歌うことで一番大切にしているのは、“聴いてくれた人に何かを感じてもらいたい!”ということね。

— では、今回のアルバム『私の本当 / IN MY SKIN』に込めた想いは?

ミリー: 今現在、社会で生きている全ての人の要素を探るっていう意味を込めている。ローラーコースターのような人生かもしれないけど、それを受け入れて、自分を尊重して生きていかなきゃいけないっていうことを表現しているの。

ミー: うん。今までの作品では探索できなかったことを、今回のアルバムではできていく気がする。とてもパーソナルな感情を吐き出しているし、コロナという感染症が蔓延したことで、いろんな感情が渦巻いたと思っているの。ロックダウンも経験して、考える時間があったからこそ向き合えたと思っていて、それをこのアルバムに詰め込めた感じがしているわ。

— レコーディングを始めたのはいつから?

ミリー: 2020年に南アフリカで作りを始めて、それからレコーディングに入っていた時にロックダウンがあってスタジオに入れなくなっちゃったの。ロックダウンが明けから作業を再開して、完成したのは2022年だった。

ミー: 2年近くかかってしまったんだけど、こんなに時間をかけて作ったことはないから、いろんな感情や時間の流れが込められたと思う。本当に忘れられない。1曲目の「Breathe」は特にそうで、この曲を書いた時は南アフリカにいて、コロナのパンデミックで街がすごいことになってしまっ

て…今までに感じたことのない圧迫感に襲われたわ。まるで口を塞がれたような感覚で、“人は抑圧されるとこんなに苦しくなってしまうんだ!?”と実感して。“抑圧されてはいけないよ!”って叫びたかった。

ミリー: “自分の人生なんだから押しつけられてね”ということ伝えてたくて、この曲を作ったの。あまり大きな声は出せなかったけど、“ちゃんと心の声も外に発信していったね”というメッセージを込めてね。

— なるほど。だから、この曲のタイトルは“Breathe=呼吸”なんですね。今回のアルバムはThe Soap Girlsのいろんな一面を楽しめて、男性のデスヴォイスっぽい歌唱が入っていた「Psycho」もとても力強かったです。

ミー: 違うの違うの!

ミリー: デスヴォイスは私! 私だと思っ

ていない人も多いから、ライブで歌うと驚かれるの! 私が悪魔で、ミーが天使。私

がデスヴォイスで歌うと、ミーの歌声との差がより激しくなるの。

ミー: ライヴだともっと楽しいから、本当にライブで観て聴いてほしい!

— 「Kill Breed」が一番ダークなイメージがありましたけど、この曲に込めたのはどんな想い?

ミー: 人としての思いやりを忘れがちな社会だから、一番大切にしないといけないことは何なのかということを見つめ直してほしいっていう歌よ。

ミリー: SNSを通じて人間味のないことを言ったり、お互いのことを傷つけ合うのは悲しいことなのに、その方向に流されがちでしょ? それは人間の生き方に反していると思うの。

ミー: 私は人の痛みをちゃんと分かる人になりたいと思うわ。ひとりひとりが思いやりを持って、酷いことをする人もいなくなるのね。ライブでは「In My Skin」とか「Promise You」とか、大人しめな曲もやったりしているのよ。悲しい曲なんだけど、すごくエモーショナルでエネルギーがあるから。日本でもたくさんライブをして、生でいろんなThe Soap Girlsを聴かせたい!

— どうして日本に興味を持ったのですか?

ミー: 日本は世界の中でも特別な文化がある国だから。それは子供の頃からずっと思っていたわ。

ミリー: 私も同じ。子供の頃からずっと行きたい国だった。日本の文化や音楽をYouTubeでよく観るけど、本当に惹かれるものがある。

ミー: だから、日本でツアーができることが本当に嬉しい。日本に行ける夢が叶っただけでも嬉しいのに、日本のアーティストのみならずライブができるなんて本当に夢みたい!

ミリー: ツアーで共演するアーティストの音楽をミーと一緒に聴いたり、動画を観て楽しみにしているわ。

ミー: 全部のアーティストが個性的で素敵! 可愛いし、カッコ良い。ビジュアルもサウンドも本当に最高!

— 全公演を淳士さん(ex.SIAM SHADE, BULL ZEICHEN 88)とともにしますが、初めて一緒に演奏する気持ちは?

ミリー&ミー: アメージング!

ミリー: 本当に多彩な人だから、淳士が私たちのツアーでドラムを叩いてくれると知った時、ミーと今みたいに声を合わせて“アメージング!”って言っちゃったわ。彼

のことをYouTubeで観て、なんて素晴らしいんだろうって感動したの。

— 最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

ミー: 私たちの子供の頃からの夢が叶う時間でもあるから、今回のツアーは本当に大切にしたいと思っているわ。日本の文化にもどっぷりハマりたいし、経験したことのない時間を感じてみたい。

ミリー: 共演するアーティストのみなさんと出会えることも楽しみなので、私たちを待っていてくださいな!

取材: 武市尚子

OKMUSIC

このインタビューの全文を公開中!!



『私の本当 / IN MY SKIN』

Album 9/30 Release
B.I.J. Records.



BIJR023C
¥3,300(税込)
※初回限定:
GIGカード封入/国産
特製ジャケットカバー

『The Soap Girls JAPAN TOUR 2022 [SIXTH GENERATION ROCK LIVE Show "Tokyo Duel" round 1]』

- 9/25(日) 東京・WOMB
- w) Gacharic Spin
- 9/26(月) 東京・新宿 MARZ
- w) ベッド・イン
- 9/28(水) 京都・磔磔
- w) 東京初期衝動
- 9/29(木) 京都・磔磔
- w) チャラン・ポ・ランタン
- 9/30(金) 東京・WOMB
- w) Kaya, bulb
- 10/01(土) 東京・下北沢 251
- w) FEMM
- 10/02(日) 東京・WOMB
- w) ASP
- 10/03(月) 東京・新宿 MARZ
- w) 東京初期衝動
- 10/04(火) 東京・新宿 MARZ
- w) BRIDEAR
- 10/05(水) 東京・新宿 MARZ
- w) 土屋アンナ
- 10/06(木) 東京・下北沢 シャングリラ
- w) MOSHIMO



L → R ミリー (Vo & Ba), ミー (Vo & Gu)

ゆいにしお

一緒に作ってみたい人と、
その時に作りたい楽曲を作った

25歳になったゆいにしおが感じる葛藤や不安、そして喜び。さまざまな心境と向き合いながら挑戦し続ける彼女が完成させたメジャー1stフルアルバム『tasty city』は、まさに明日を生きる私たちへのエールだった。聴いた人が前向きになれる、そんな今作について話を聞いた。



—メジャーデビューをされて心境の変化はありましたか？

「インディーズ時代とは違う責任感がありますが、気負いしすぎていることもないので、いい緊張感の中でやれています。生活に寄り添えることや、同世代の女性を応援したいという想いがこれまで一番にありましたし、今後はそこをより強く出していきたいと思っています。ありがたいことに、それができる環境でありチームなので、今作もリラックスしながら制作できました」

—今作には新曲も多く収録されていますが、制作当初には“こうしたい”というイメージがあったんですか？

「特にコンセプトは決めていなかったです。純粋に一緒に作ってみたい人と、その時に作りたい楽曲を作ったという感覚でした。『tasty city』というタイトルも、ファンクラブ名であることや、楽曲の中に食べ物の名前が多く出てくることから決めたものなので。でも、いつもよりも悩まずに制作できたように思います」

—今までは結構悩んでいたのでしょうか？

「そうですね。3rd ミニアルバム『うつくしい日々』(2021年11月発表)を作っていた頃は結構スランプ状態だったので、最近はそのから抜け出したように思

います。言いたいこともスルッと歌詞にできるようになったし、メロディーも自分好みのものが生まれるようになってきたので。抜け出せたきっかけというか、これは荒療治だと思うんですけど、スランプであろうが関係なく、ひたすら楽曲を作り続けていったことが効いたんだと思います。うちのチーム、かなり体育会系なので(笑)」

—なるほど。以前のインタビューで、「今まで書いてこなかった不倫をテーマにした曲もある」と話されていましたが、それってもしかして「チートデイ」ですか？

「そうですね！『チートデイ』はアルバムを作るにあたって最初にできた楽曲ですね」

—「チートデイ」も異色ではありませんが、今作1曲目の「CITY LIFE」も「1音目から完璧な音楽」というフレーズで始まりますし、今までのゆいにしおさんにはなかった一面が垣間見えました。

「ほのぼのした楽曲ですが、1行目がパンチありますよね。でも、そのパンチラインがトップにある楽曲を作品の最初に持ってくることで、“名刺代わりの作品にするぞ！”という気概を示したかった意味もあります。《30になれば望んでいないような／呪いも晴れて解けてくるはずでしょう／張り付いたままの笑顔で／また別の呪いがかかる》というフレーズも攻めていると思っていて。今、私は25歳なんですけど、この年齢でいるんなことの境目なんじゃないかと思うんです。結婚する人もいれば、別れる人もいるし、仕事に専念しようと思意込む人もいます。そういう分岐の歳だなと。なので、そういった同年代の方に響くように、具体性のある歌詞を書いた楽曲です」

—確かに20代半ばって、いろいろと環境や心境も変わるタイミングではありませんよね。先ほど出していたフレーズでは、「呪い」という言葉をキーワードにしてポジティブ／ネガティブの双方を描いていると思うのですが、その表裏一体というテーマは「sun shade」にも通じていると思いました。

「ふたりの女子高生が主人公になっているノベルゲームのタイアップとして制作した楽曲なので、その世界観をイメージしながら歌詞を書きました。10代の頃って思い返せば楽しいことばかりのように見えるけれど、10代特有の悩みもあったし、行動も制限されているからその閉塞感もあったと思うんです。そう

—それは年齢を重ねることに恐れや嫌悪感を抱いているからでしょうか？

「ああ、それは結構強かったと思います。そう思うのは、私が女性シンガーソングライターだからというの大きな理由かもしれないです。女性シンガーソングライターってどンドン低年齢化していて、15歳くらいの子がライブハウスで歌っていることもあるんですよ。私は19歳から活動を始めたんですけど、その頃に“まだギリギリ若いから、お客さんも集まるんじゃない？”と心ないことを言われたこともあって、“歳をとりたいくないな”と思ってい

—具体性のある歌詞であれば、「チートデイ」や「スパイスガール」「Rough Driver」は特にその色が強いものだと思いますが、それらは自分らしさのひとつになっている実感はありますか？

「挙げていただいた3曲は特に生々しいんですよ。生々しすぎてスタッフさ

んに止められたくらい(笑)。でも、やっぱりそういう歌詞が好きですし、自分の強みにもなっていると思います。「Rough Driver」は先に作っていただいたトラックにメロディーを乗せるという、これまで今までにない作り方だったんです。そこから、ドライブ、ネオン、80,90年代シティポップ…というイメージが浮かんできて、歌詞を書いていきました。最近、私の周りの友人の多くが失恋しているんですけど、そういう人たちに泣いてもらいたいと思って、先ほどのイメージと恋愛を絡めて書き上げました」

—そういった私生活上の出来事が楽曲制作に反映していくことは多いんですか？

「そうですね。今作は特に女子会にお世話になりました(笑)。「スポットライト」もまさにそれで、女子会中に友人が叫んだ“早く上書きされたー！”というひと言を採用しています。やっぱり自分の経験だと限界があるし、そういう場での出来事は参考になりますね。「mid-20s」はそういう経験をした友人を含めて、“同年代の女性を応援したい！”という私自身の想いが前面に出た曲で。先ほどの年齢の話につながるんですけど、マインド的にはずっと20代前半なので、実年齢との違和感が生まれるんですよ。でも、先輩からは“30代って楽しいよ”と言われるし、《記号だけの／若さなんて早く捨てたい》というフレーズがまさにそうなのですが、歳をとることをポジティブに考えられるようにしたいと思っています」

—それは年齢を重ねることに恐れや嫌悪感を抱いているからでしょうか？

「ああ、それは結構強かったと思います。そう思うのは、私が女性シンガーソングライターだからというの大きな理由かもしれないです。女性シンガーソングライターってどンドン低年齢化していて、15歳くらいの子がライブハウスで歌っていることもあるんですよ。私は19歳から活動を始めたんですけど、その頃に“まだギリギリ若いから、お客さんも集まるんじゃない？”と心ないことを言われたこともあって、“歳をとりたいくないな”と思ってい

ました。でも、自分ができることに対して制限をかけられるようになったのは、この年齢になったからこそかなと。昔だったらひたすら突っ走るだけだったんですけど、今はちょうどいいところでブレーキをかけられるようにもなりました」

—自分にとって一番良い塩梅の上で、挑戦をしていこうと。

「はい。今まで培ってきたゆいにしおらしさを保ちつつ、いろんな表現にトライすることで、今までにない自分らしさが生まれていったらいいなと思っています。今作ではそれができたと思っています。新曲ができたら必ず兄に聴かせるんですけど、兄からのお墨付きをもらえたので自信があります(笑)」

—身内の言葉は心強いですね！10月からは東名阪のワンマンツアーがスタートしますし、楽しみです。

「そうですね。メジャーアルバムをリリースして初めてのライブなので、今まで応援してくれているファンの方にも観てもらいたいし、これを機に知ってくれた人たちもしっかりと楽しめるライブにしたいと思っています」

取材：峯岸利恵



このインタビューの全文を公開中！▶



「tasty city」

Album 10/5 Release
日本コロムビア



COCPL-41838
¥3,000(税込)

「ゆいにしお Major 1st Album『tasty city』Release Oneman Tour "tasty sound"」

10/26(水) 大阪・心斎橋 Music Club JANUS
10/27(木) 愛知・名古屋 eil.FITSALL
11/25(金) 東京・渋谷 WWW

music UP's Q!

今月のお題：「あなたにとってのヒーローは？」

■阿佐ヶ谷姉妹

「上京したあの頃、生活環境が変わってしまったこともあって、すこしくんとい時期が続いていたんですよ。曲も思うように書けなくて、“もう無理かもしれない”と思っていた時に『阿佐ヶ谷姉妹のほほんふたり暮らし』というエッセイを読んで、それがすこく息抜きになって“まだやれる！”と思えたんです。だから、阿佐ヶ谷姉妹は自分を救ってくれたヒーローです」



ムーンライダーズ + 佐藤奈々子

その時代の豊かな音楽だったり、
輝きを楽しんでもらえたらいいなと

1979年1月28日にTOKYO FM『デンオンライブ・コンサート』でオンエアされたムーンライダーズと佐藤奈々子とのスタジオライブ。その放送があったことも知らないファンも少なくなかった、まさしく“幻のライブ”が今夏、『Radio Moon and Roses 1979Hz』としてCD音源化された！ 今回の経緯と当時の記憶をレジェンダリーシンガーである佐藤奈々子にうかがった。

—『Radio Moon and Roses 1979Hz』は1979年1月にオンエアされたムーンライダーズと佐藤奈々子さんのスタジオライブが収録されたものですが、43年経ってのCD音源化というのは極めて稀なケースではないかと思えます。佐藤さんのInstagramを拝見しましたら、“不思議な経緯をたどり、リリースされることになりました。”とありました。どのように不思議だったのか、まず本作の音源化に至る経緯をおうかがいしたいと思います。“確かに1979年に私たちはラジオライブをやったわけです。だけど、それは“やった”というだけで、その後、私たちはそのラ

ジオを聴いたこともなく、流れたままで、それが2年前くらいかな？ デビュー当時のバックバンドをやっていた友達が私のライブを観に来て、“友人からこれを”と言ってCD-Rをくれたんですね。でも、白盤で何も書いていないから聴かずにずっと置いていて、で、しばらく経って家のCDを整理した時に、“これはいったい何だろう？”と思って聴いてみたら、すごいものが入っていてびっくり！ 玉手箱が開いたみたいで(笑)。“どうしよう！ どうしよう！”となって、すぐにムーンライダーズの岡田 徹くんやマネージャーの方に聴いてもらい、みんなですごい！ すごい！”

となって(笑)。何がすごくて、いろんな素晴らしい輝きにあふれている。特に鈴木慶一さんの声が素晴らしい。今までリリースされたアルバムとはまた違う…本当に素晴らしい歌で、自分も若くて可愛い歌声だったし、ムーンライダーズのみならずそういうものにあふれていた。しかも、録音状態が素晴らしい！ そもそもラジオライブで音質が良かったから、カセットに…そうそう、おおもとはカセットなんです」

—ラジオ番組をカセットテープに録音したものをCD-Rに落としましたよね。「ええ。その音源をくださった方は、今、中古レコード屋さんをやっている、その方が若い時分にエアチェックしたカセットをずっと持っていて、それをデータ化して、そのコピーを私にくださったんです。後日、ムーンライダーズのファンクラブの方々に訊いてみたんですよ。“そのラジオ番組を聴いてエアチェックした人はいますか？”って。そうしたら、聴いたことがある人がひとりかふたりいらっしゃったんですけど、エアチェックした人は誰もいなかった。だから、本当に貴重なものなんですよ(笑)」

—オンエア日は1979年1月28日だったそうですが、これは生放送だったんですか？
「そうなんです。生放送でこのクオリティーって素晴らしいなあって」
—当たり前ですけど、全て一発録りでしようし。

「一発録りもそうだし、やっぱり録音のクオリティーですよ。豊かな時代の録音技術で切り取ってくださった気がします。この音源は本当に豊かさそのままの音がして、カセットの音というのもあって、すごくいいんですよ」

—ん？ 今回のCDの原盤はカセットテープでエアチェックしたものでないですか？

「そうです。最初はCD-Rをいただいたんですけど、そのレコード屋さんが“カセットも差し上げます”って送ってくださり、それをコロムビアさんがデータにしてください」

—それはちょっと驚きですね！
「カセットで本当にいい音がするんだなって。でも、もとの音もいいんですよ。とっても大きなスタジオだったことを覚えています。演奏を録音するためのスタジオでしたね。それで、だんだん記憶も蘇ってきて…」

—1979年1月28日当日の空気感も蘇ってきましたか？
「最初は全然覚えていなくて。確かにライブをやったことは覚えているんですけど、“どこでやったの？”って。でも、聴いていくうちにだんだん蘇ってきて、まず感覚として“広いスタジオだった”とか“こういう感じのスタジオだった”とか、そういうことが思い出されて。でも、“そのためのリハーサルをしたの？”とか、そういうことは覚えていないんですよ(苦笑)」
—ムーンライダーズのメンバーは何かおっしゃっていましたか？
「そんなに記憶が鮮明な人はいなくて(笑)」

—まあ、40年前ですもんね。そもそも佐藤さんとムーンライダーズと一緒にスタジオライブをやることになったのは…これも覚えていらっしゃるようになりますが、どういう経緯だったのでしょうか？
「それがムーンライダーズ側からの提案だったのか、私側からだったのかはよく覚えていなくて…」

—佐藤さんがムーンライダーズのライブに参加していたり、佐藤さんのアルバムにムーンライダーズのメンバーが参加されていたり、お互いに交流があった時期があって、それも関係していたのでしょうか？
「それはきっとそうだと思います。今も交流はありますが、結構いろんなことをやっていた時期ではあったと思います」
—佐藤さんの3rdアルバム『Pillow Talk』が1978年10月のリリースで、『Radio Moon and Roses 1979Hz』収録のスタジオライブは1979年1月のオンエアですね。

「きっといっぱいいろんなことを一緒にやっていたんですよ」

—佐藤さんとムーンライダーズとの出会いについてもおうかがいしたいと思います。『Pillow Talk』に鈴木慶一さんが参加されていましたが、その時が最初の出会いでしたか？

「いえ、最初に会ったのはCMの仕事でした。ムーンライダーズがアレンジと演奏をして、私が歌うTVコマーシャルで呼ばれ

たんです。それが音楽的に一緒に何かをした最初ですね。もちろん、ちょっと〜っていう歌をロック調にアレンジして私が歌うお仕事でした」

—そうなんですすね！？ その時の佐藤さんのムーンライダーズの印象はいかがでしたか？

「私はその前からムーンライダーズのことは知っていて…『火の玉ボーイ』が大好きだったんです」

—大好きなバンドとの仕事だったんですね。佐藤さんにとってムーンライダーズはどんなところが魅力的でしたか？

「というか、“なんてカッコ良いバンドなんだ！？”と思って。曲自体も素晴らしいし、歌も最高で、“こんなにカッコ良いロックバンドが日本にいるのか！？”とびっくりしました」

—他にこういうバンドはいないと思うし、誰かが真似することもできないと思います。何でしょうね、ムーンライダーズのスゴさって(笑)。

「ひとりひとりの人間性が素晴らしいって、自由で、でも集まると絶対的にムーンライダーズになるというところですね。ひとりひとりの音楽を聴いてもムーンライダーズだし。本当に不思議で、ムーンライダーズという生き物がいるような(笑)」

—『Pillow Talk』で慶一さんが参加されていたり、おっしゃるの、もしかして佐藤さんからのリクエストだったか？

「よく覚えていないんですけど、その頃はすでにムーンライダーズと仲良かったから、自然の成り行きでそうなった感じですね。新宿LOFTと一緒にライブをやったり、ムーンライダーズのワンマンライブにコーラスで出たり、そういうのがありました」

—そうしますと、本作のスタジオライブも自然な流れの中で行なわれたことが分かりますね。佐藤さんの歌声について、慶一さんをはじめ、ムーンライダーズのメンバーから何か直接お言葉があったことはありますか？

「あの方たちはシャイなので、改めてお言葉を言わないタイプなんですよ(笑)。ただ…ついこの間、ベースの鈴木博文

さんが私のソロライブを観に来てくれて、“なんて素敵な歌声だ”ってボロリとおっしゃっていたのが嬉しかったですね」

—佐藤さんは“慶一さんのお声は素敵ですよ”とか楽器の演奏について、直接メンバーにお伝えしたことはあるんですか？

「それはいっぱいあります。今でも“素敵ーっ！”って言います(笑)」

—ムーンライダーズのお話になると、いちファンに戻るようですね(笑)。「もうずっとムーンライダーズのファンですから(笑)」

—了解です(笑)。佐藤さんはこの『Radio Moon and Roses 1979Hz』は貴重なものだとおっしゃいました。それは冒頭で語ってくださったライブ音源が発掘された過程を鑑みても貴重なものであることは間違いのないのかもしれませんが、大好きなムーンライダーズと一緒に、1970年代後半に生演奏したという記録です。その意味でご自身にとっても貴重なものであるし、とても喜ばしいことなんじゃないかな。

「何かね、これは私とムーンライダーズに限ったことではなくて、アルバムが一番大きな意味というのは、その時代そのものの輝きであったり、その時代の豊かな音楽という記録されているものなので、その輝きを楽しんでもらえたらいいなと思います」

取材：帆刈智之



このインタビューの全文を公開中！▶

『Radio Moon and Roses 1979Hz』

Album 8/3 Release
日本コロムビア



COCB-54348
¥3,300(税込)

music UP's a!

今月のお題：『あなたにとってのヒーローは？』

■ジョニ・ミッチェル
「彼女は私にとって憧れのひとりなんです。同じシンガーソングライターとしても昔から大好きで。そんな彼女が先日、大病から復帰してフェスにサプライズ出演したのですが、歌っている彼女の姿を見て涙が止まりませんでした。その時に彼女が発した言葉もとても輝いていたんですよ。本当に素晴らしいミュージシャンだと思います。ジョニ、最高です！」

GOD & SIZUKU

“見知らぬ世界に”は NFT の世界であり、メタバースの空間

チバテレで放送されて話題を呼んだドラマ『GOD ドクター』の監督主演のGODと、同ドラマのヒロインで医療学会や医師からさまざまな医療認定を受けているシータ波シンガー・SIZUKUによるGOD & SIZUKU、RichLand Ai 株式会社が運営する近日中にオープン予定の『RichLand Ai NFT』の総合プロデューサー及びアンバサダーに就任し、昨年5月発売したデビューアルバム『闇に負けるな光を取り戻せ!』より「アルトマンの世界」がイメージソングに抜擢された。…ということで、その経緯などについてふたりを直撃した!



L → R SIZUKU, GOD

—新しいシステムを導入した『RichLand Ai NFT』の総合プロデューサー及びアンバサダーにGODさんとSIZUKUさんが就任されたそうですが、その経緯というのは?

GOD:『ビットコインボルト』というのがありますが、それが世に出る前は“プロジェクトX”という名前だったんですね。それに僕はかかわっていたんです。その話を聞いたRichLand Ai株式会社の担当者から“ぜひ一緒にやりませんか?”とわれたんですよ。僕、『ビットコイン』の時に思っていたことがあって。仮想通貨って“仮想”なわけだから、みなさんは実態がないものに対してお金を払っているわけですけど、実体経済がついているコインじゃないと絶対にダメだと思っていたんです。『ビットコイン』が脚光を浴びて、そのあとに似たようなものがいっぱい出てきて、詐欺まがいなものがあったり、名称も“仮想通貨”から“暗号資産”に変わったりして、あんまりいいイメージがないんですよ。僕は

エンタメをやっているんで、仮想通貨とエンタメを合体できないものかと思ったんです。そうなると実在するものがあって、それを買うのが現金じゃなくてコインになるという。それがNFTで使える実体経済がついているコインであればいいんじゃないかと。

—NFTは数年前から注目されていますからね。

GOD:それが2018年くらいだったかな? 僕もそんなに詳しくはないんで調べてみたら、要は唯一無二な価値ですよ。有名無名関係なく、作品には唯一無二な価値があると。じゃあ、それをどうやって売ればいいのかとなると、『OpenSea』というニューヨークにある世界最大のNFTマーケット…オークションサイトみたいなものなんですけど、作品を『RichLand Ai NFT』に載せれば、『OpenSea』にもつながって、世界中に売れる仕組みなんです。例えば僕が絵を描いて、それを300円で出品して、それに対してオーク

ションが行なわれて、G3S コインという仮想通貨で売買される…そのシステムがひとつのパッケージになっているんですよ。もちろん有名な人だと注目されるけど、全然無名の人…それこそ小学生が描いたものでも、興味を持ってもらえれば売れるわけです。出品するのは、絵画、音楽、映像、アニメなど何でもいいし、すごく夢がありますよね。

—いろいろな可能性が広がっていますよね。これからのアーティストの表現の場になるというか。

GOD:そうなんです! 僕はコンテンツをたくさん持っているんで、『RichLand Ai NFT』の担当者にコンテンツ提供というかたちでかわろうかと提案したら、“GODさん、コンテンツを集めてください”と依頼され、もともとはコンテンツプロデューサーだったのが、いろいろ任されているうちに総合プロデューサーになったという(笑)。で、それを宣伝するアンバサダーが必要なので、ちょうどそのタイミングでSIZUKUに大きなタイアップが決まったこともあり、彼女が広報宣伝大使になることになったんです。

SIZUKU:だから、今、NFTや仮想通貨、メタバースのことを勉強しています(笑)。『RichLand Ai NFT』から仮想通貨で買ったNFT作品を自分の部屋に飾る…そういうことができるのって素晴らしいと思いますね。

—そんな『RichLand Ai NFT』のイメージソングに『アルトマンの世界』が起用されたんですよ。

GOD:そうです。『RichLand Ai NFT』をエンタメに落とし込むには、まずは歌が必要なので、“歌を作ろうよ”と持ちかけて、イメージソングを作ることになったんです。でも、新しく作らなくてもストックはあるし、曲はいっぱいあるから、そこから選んでもらったんですね。そしたらデビューアルバムの中から『アルトマンの世

界』が選ばれたんです。

—そういう流れなんです。なぜこの曲がNFTやメタバースのプロジェクトのイメージソングになったのか不思議だったんです。魔法の国の姫と小人の空想物語でありつつ、差別問題に焦点を当てた曲ですもんね。

GOD:だから、僕らも絶対にこの曲は選ばれないと思っていましたよ(笑)。

SIZUKU:でも、《ある日突然 見知らぬ世界に 僕は飛び込んだ》で始まり、見知らぬ世界に飛び込むというところはリンクするのも!

GOD:ファンタジックな世界っていうのが欲しかったのかな? まあ、歌詞うんぬんよりもメロというか、メロディーとサウンドが良かったみたいです。“出だしのところが私たちを新しい世界に連れて行ってくれるみたい”って。

—確かにイントロというか、鳥のさえずりとトマリホラッタ〜という導入は別世界へと引き込まれる感覚がありました。

GOD:SIZUKUも言っていましたけど、《ある日突然 見知らぬ世界に 僕は飛び込んだ》の“見知らぬ世界に”はNFTの世界であり、メタバースの空間ということかなって。曲自体はかかなり昔に作ったものなんですけど、25年くらい前かな?

—GODさんが“GOD”と名乗る前からあったそうなんです。あと、GODさんのアルバム『GOD WORLD』(2020年5月発表)にも収録されていますし、そもそもどんな曲を作ろうとしたのですか?

GOD:ファンタジックなものを作りたいかったですよ。で、どんなアーティストも地下の世界のことを歌っていないと。“アントマン”というのは“蟻”ですよ。あと、『超人バロム・1』の戦闘員も“アントマン”でした(笑)。そのまま“アントマン”じゃあ芸がないと。“アントマン”ってどういう意味が分かります?

—調べたのですが…

GOD:実在しない言葉ですから(笑)。“アルト”はアルトヴォイスの“アルト”なので“低い”という意味なんです。階級が低いっていうことなんです。インドで言うところのカースト制度の最下層がアルトマン。上層部が王様で、この曲の登場人物には中間層がなく、アルトマンはコツコツと働いている…それこそアントマンですよ。蟻が勤勉に働いて、それを王様が吸い取っている。その復讐として、アルトマンが王姫に変な薬を飲ませて小さくして、自分たちの世界に連れて行ってしまおうという。自分たちの世界を知ってほしくて。そんな物語なんです。まあ、今で言うところの“上級国民”と“下級国民”ですね。

—サウンドはサウンドで、もはや組曲ですよ。

GOD:イメージ的にはふたつの世界を描きたかったんですよ。王様と王姫の世界とアルトマンの世界を。だから、サウンドも変えているんです。

SIZUKU:GODって基本的に組曲が大好きなんです。映画音楽やクラシックが好きなんです。この曲だけじゃなくて、“これ、歌うの?”と思ったことがいっぱいあるし(笑)。それこそ25年くらい前、GODは自分の音楽を“ネオ・サウンド”って呼んでいて、組曲みたいな曲がいっぱいあったカセットテープを聴かせてもらったことがあったんです。私はクラシックをやっていたから、そこまで抵抗はなかったんですけど、世間一般的な曲とは全然違うから、当時はあまり受け入れられてもえなかったんですよ。でも、今っていろんな曲があるから、やっと時代が追いついたのになって。

GOD:その当時は僕はゴーストライターをやっていた、仕事で作っていた曲は俳句調なんです。五七五なんです。でも、自分が作るネオ・サウンドは短歌だっ

たんです。五七五七七って。だから、組曲みたいになるんですよ。

—あと、曲中にナレーションが入りますが、GODさんは仮面ライダー好きだからそれが大きいのかなと。

SIZUKU:あー、それっぽい(笑)。GOD:完全にそれです!“仮面ライダー本郷 猛は改造人間である。彼を改造したショッカーは〜”みたいなナレーションってヒーローものには欠かせないですからね(笑)。つまり、ストーリーを語ってくれる別の人物が必要だったんです。でも、あれの入れどころが難しいんですよ。あと、僕は台詞を覚えられないからSIZUKUに半分あげました(笑)。

—『アルトマンの世界』は『RichLand Ai NFT』のイメージソングなわけですが、これはどこで聴けるんですか? CD化の予定とかは?

GOD:まだ分からないんですよ。僕は盤にするのが好きなのでCD化するかもしれないですけど。イベント会場とかでは流れるだろうし…まあ、そこはこれからですね。

—では、GOD & SIZUKUとしての今後の予定は?

GOD:『GOD ドクター』の続編と映画版を企画中です。そして、まだ言えませんが誰も知ってる世界的に有名な方の応援歌をプロデュースするかもしれないです。それはその時が来たらお話ししますね。

取材:土内 昇



このインタビューの全文を公開中!!▶



music UP's Q!

今月のお題:『あなたにとってのヒーローは?』

■ GOD: 仮面ライダー

「もう子供の頃から一貫して、僕にとってのヒーローは仮面ライダーなんです。全世界を牛耳っている悪の組織と光の軍団の対決というのが、アルバム『闇に負けるな光を取り戻せ!』のコンセプトだったんですけど、それも一緒なんです。悪がショッカーで正義がライダーなんです。それを子供の頃に頭に中に叩き込まれたんです。だから、1号や2号がどうのじゃなくって、その設定ですごい。ショッカーが本当にいると思ってたんで、やっつけないとダメだと思って街中を探し回っていました(笑)。そうやって善悪の区別をするようになって、それこそいじめられっ子がいたらいじめっ子をぶっ倒したり。今の僕はこんな立ち方って悪っぽいんですけど(笑)、昔から表現しているのはそれなんです」

■ SIZUKU: ウォルト・ディズニー

「もともとディズニー映画は好きだったんですけど、ある時、NHKが何かでウォルト・ディズニー生誕110周年の特番を観たんです。それで“この人、すごいやん!”って感動して、かなりリスペクトの念が高まって、そこから映画とかでも目線が変わりましたね。東京ディズニーランドやディズニーシーに行っても、今まではただ楽しんでいただけだったのが、“こういうコンセプトなんや”とか“だから、ここにこれがあるんや”って制作者の意図だったり、裏側に興味を持つようになったんですよ。それこそ登場人物のバックストーリーを考えるようになったり。それはディズニーに限らず、そういうところに目が行くようになったんで、私を変えてくれた人っていう意味でもヒーローですね」

タワレコ推し活グッズ

推し活お守り

推しの色に合わせて色を選べる、良席祈願のお守り。
多くの芸能人が訪れることで有名な京都の
「車折(くるまざき)神社」に祈禱して頂き、中にはご神体も入っています。



裏面には写真や雑誌の切抜きなどが収納可能♪

タワーレコード全店
(一部店舗を除く)で
好評発売中!

詳しくは
コチラをチェック!



TOWER RECORDS



バンドマンってというのが、
僕が一番好きな生き方なんですよ。

山内総一郎 (フジファブリック)

from OKMusic Interview March 2022

Photo by 森好弘

JAPAN MUSIC NETWORK
japanmusicnetwork.jp



全日本歌謡情報センター





Pop'n'Roll

<https://popnroll.tv/>

聖菜

アイドルメディア「Pop'n'Roll」の聖菜インタビューのアウトテイクカット。記事では、白い肌が印象的な“天使ボディ”を大胆に披露し、ほぼすべてのページにわたって肌見せ全開のカットを取めた『聖菜1st写真集anela』の制作エピソードについて語っている。



[インタビューはこちら](#)



[Amazon 限定写真集の
販売ページはこちら](#)



MUSIC SUPPORTERS

インディーズシーンを引っ張るアーティストの情報を、インタビューで紹介していきます。music UP'sのWebでは、インタビューの拡大版や過去の記事がまとめてご覧いただけます。「MUSIC SUPPORTERS」で、あなたの運命のアーティストを見つけよう！



[MUSIC SUPPORTERS]
https://okmusic.jp/ups/music_supporters

HERE



L→R 三橋隼人(Gu)、尾形回帰(Vo)、武田将幸(Gu)

ヒア:2008年活動開始。ハイテンションという名の“熱中”を追求するロックバンド。18年5月に結成10周年を記念して「ハイテンションフェス」を初開催し、私立恵比寿中学、9mm Parabellum Bullet、アルカラなど親交のあるアーティストが集結。同年9月にはZepp DiverCity(TOKYO)でバンド史上最大規模のワンマンライブを敢行。20年12月に6thアルバム「風に吹かれてる場合じゃない」を発表。21年11月にはCD+DVD盤の売上げを「Music Cross Aid ライフエンタメ従事者支援基金」に寄付するプロジェクト「POWER TO JAPAN 2021」を立ち上げた。 <http://here-web.com/>

研ぎ澄まされた言葉や音を表現していきたい

HEREが2020年12月リリースの6thアルバム「風に吹かれてる場合じゃない」以来、1年10カ月振りのオリジナル音源となるEP「詩になる」を完成させた。そんなHEREはロック現場主義を貫き、緊急事態宣言下においても「ハイテンションフェス2021」の開催や、全15組のアーティストが参加したチャリティープロジェクト「POWER TO JAPAN 2021」を立ち上げるなど、コロナ禍でも決して止まることなく活動を続けてきた。

「対バンライブは未だに少ないですけど、人前で歌うことやバンド仲間と何かを成し遂げるといところで、改めて人とつながりを大事にした期間でした。そういう経験が自分たちの力にもなりました」(尾形)

「ライブを大事にするのは昔から変わらないけど、今は当日まで開催できるの分からない状況なので、ひと際ライブの重みを感じながら活動しています。もっとたくさんの人を巻き込んでいくにはどうしたらいいんだろう？」と、より真剣に考えるようになって、発信すること、伝えていくことの大切さを強く感じています」(武田)

前作から今作までの期間はコロナ禍での活動制限や生活様式の急変に加え、元メンバーである宮野大介の死や尾形回帰に長男が誕生するなど、人生の転機となる出来事が続いた。「詩になる」にはそれらの経験や感じたことが楽曲に落とし込まれている。

「今年の2月から3月にかけてツアーをやっていたんですけど、ツアー直前の1月に元メンバーの宮野大介の訃報が入って、個人的な話では3月に子供が生まれて、宮野は15年以上バンド活動をともにしてきた仲間です。頼りにしていた存在だったので、いなくなっちゃったことすごく喪失感がありました。仲間の死と子供の誕生を経験することで、生きていることや死ぬことについて改めて考えさせられて、自分の人生観も大きく変わりました。やはり歌詞にも影響はあって、これから次のアルバムに向けて曲を作っていきますけど、ここからできる曲は今までの人生を振り返りながら、歌うことや曲を作ることの意義を歌詞に綴った「詩になる」は、メンバーの音楽人生の転機となり、指針になるような重要曲になった。

これまでの人生を振り返りながら、歌うことや曲を作ることの意義を歌詞に綴った「詩になる」は、メンバーの音楽人生の転機となり、指針になるような重要曲になった。「自分たちもいつかあるか分からない中、時間が限られていることを改めて感じたので、その中でどんな言葉を選んで、どう発信していくかを見極めて、研ぎ澄まされた言葉や音をひとつひとつ表現していきたいと思って作りました」(尾形)

「尾形の歌詞はノンフィクション感が年々増してきて、言葉に人生を刷り込んでいると感じています。だから、ここまで曝け出してくれる人に対して、恥じないような、負けないような演奏をしなきゃいけないと。「詩になる」もそうですけど、僕も「自分の人生を少しでも多く作品に落とし込んでいきたい」という気持ちは、前作くらいからすごく強くなっているんです」(武田)

ライブハウスは未だ規制が多く、ロック現場主義のHEREもフロアをハイテンションに盛り上げるようなライブ仕様の曲が作りづらい状況ではある。そんな中、ライブで聴くのはもちろん、音源だけでも十分に満足のできるEPを作り上げた。

「曲の作り方自体は大きく変わっていないと思うんですが、あえて言うと、フロアで声を出して手をあげるような曲というより、内省的な曲になっていますね。この1、2年でライブのやり方が変わって、今のスタイルがだんだん定着してきたところがあるので、自然とその影響が出ていると思います。今まで「HEREはライブがいい」と言われることが多くて、その反面「音源がライブに勝てない」みたいに言われることもあったので、音源だけで成立するものにしたいという気持ちは常にありますけど、今作はいつも以上に丁寧に演奏していて、楽曲やアレンジも含めてクオリティーは上がっていると思います」(尾形)

「音源もいいんだよ！」って胸を張って言えるようにするには、まだまだ課題がたくさんあるので、ライブも音源も満足できるものにしていくと常々思っています」(武田)

9月30日の東京・渋谷Spotify O-Crest公演からはEP「詩になる」を掲げてのツアー「SONG FOR YOU」がスタートし、10月22日には渋谷duo MUSIC EXCHANGE、Spotify O-Crestでの2会場往來型ライブ「ハイテンションフェス 2022」を開催するHERE。そのライブと音源の魅力を目と耳で体感してほしい。

「最近のライブではレアな曲も掘り起こしたり、曲同士をマッシュアップしたりしている中で、このツアーでも新曲を演奏しながら、昔の曲も新しい表現方法で蘇らせて、新旧取り揃えていきたいと思っています。HEREらしい挑戦をしっかりと見せて、この先につながるライブにしたいです」(尾形)
「HEREに“やらない”という選択肢はなくて、“やる”しかないですかね！」(武田)

取材:フジジュン

SWANKY DOGS



L→R 川村 聡(Ba&Cho)、洞口隆志(Vo&Gu)、長谷川 快人(Dr&Cho)

スワンキードッグス:若手県出身の3ピースロックバンド。各地のフェスやイベントにも出演し、ライブを軸に活動を幅広く行っている。2014年に1stアルバム「何もなない地平線の上から」を発表し、約100本に及ぶ全国ツアーを実施。15年はミニアルバム「In The City」をリリース後、若手県公会堂大ホールで約400人を動員し、17年にはミニアルバム「イデア」を発表し、都内では初ワンマンとなる北沢RSHELTER公演も成功に収めた。 <http://swankydogs.net/>



Album 9/14 Release
『流転』
PEACE-MAKER
PML-2007
¥3,300(税込)

結成15周年に相応しい集大成的アルバム

「音源を作って、ツアーを回って、また音源を作って…というのを繰り返していたら15年経っていたんです」(洞口)

「気づいたら15周年って感じて(笑)」(川村)

メンバーはそう語っているが、若手県盛岡出身の3ピースロックバンド・SWANKY DOGSによる3rdアルバム『流転』は、結成15周年という節目に相応しい集大成的な作品だ。新境地にも挑みながら、バンドが持ついろいろな面を反映した多彩な全10曲。「かなり密な日々を過ごしてきたと思います」と長谷川快人(Dr&Cho)が振り返るこの15年の間、3人がバンドの音楽性を磨き上げることに情熱を注いできたことを物語っている。「何十曲も作って、その中からスタッフと一緒に曲を選んでいきました。アップテンポのロックナンバーやシーケンスでストリングスを入れたもの、鍵盤を入れたもの、学生の頃に聴いていたようなメロディックパンクっぽい曲もあるし、もっと歌に寄った曲も作れると思っているので、自分たちのなバリエーションというか、偏らないように意識はしていたかもしないです」(洞口)

そんな楽曲の良さもさることながら、曲ごとに趣向を凝らしたバンドアンサンブルにもぜひ耳を傾けていただきたい。UKロックを思わせる音像が印象的な「季節の変わりめに」、歌とギターを中心に隙間を活かすという、SWANKY DOGSには珍しいリズムに取り組んだ「息も出来ない」、今一度、J-POP的なバラードに真正面から取り組んだ「ルルル」ほか、彼ら自身もカメオ出演した2018年公開の映画「書くが、ままの主題歌に使われた「こえ」の収録もファンには嬉しいところ。そんな曲の数々を締め括るのがメロディックパンク調の「giftだ」。なぜ自分たちが音楽をやっているのか?という理由を歌った歌詞も含め、バンドの初期衝動を叩きつけるこの曲が印象づけるのは、アルバムの終わりではなく新しい始まりだった。

「これからもそうだよ」ってことを言いたかったのかももしないですね」(洞口)

その言葉どおり、結成15周年を経てSWANKY DOGSの活動はこれまでと変わらず転がり続けていくに違いない。

取材:山口智男

自分の中では前向きな別れの歌

今年は立て続けにアップナー楽曲を配信リリースしてきた平岡優也だが、新曲「ソングレター」はファン待望のバラード。別れを歌ったこの曲は「(会いに行くから)それが最後の言葉だったな」というショッキングな歌い出しから始まる。

「この曲は実体験です。“会いに行くね”みたいなメッセージをLINEでもらって、それが最後になりましたね。“またね”と言っていたのに2度と会えなかったという経験は僕だけじゃなく、みなさんにもあるかもしない。また、僕を知らない人に曲を聴いてもらうためには曲が流れた瞬間に“この人の声、いいな”とか“この歌詞、いいな”と思ってもらわないと、“もう10秒聴いてみよう”にはならないんですよ。だから、今回は歌い出しと1行目に命を懸けました」

亡くなった友人への想いを歌った同曲。友人を亡くした直後は“どうして?”“なんで?”ということばかりを考えて、絶望していた時期もあったと彼は打ち明ける。

「今を生きている人たちがどう頑張っても、どう考えても、いなくなったら人はもう戻ってこない。“じゃあ、今の僕が思うことってなんだろう?”と考えたら、感謝の気持ちしかなかった。なので、“ありがとう”と歌っています。悲しいバラードですけど、自分の中では前向きな別れの歌なんです」

歌詞に綴った驚いたのが歌う。これまでなら透明感ある美声できれいなメロディーをなぞっていたが、今作は曲に入り込んで感情的なぶら、擦れ気味な声で歌う部分もあり、それが逆にメランコリックな感情に訴えてくる。

「音楽活動を始めて10年経ったからか、今はこうやって粗めに歌っても“いい味”が出るようになりました。歌い手として次のステージへ行き、次の引き出しをどんどん開けていきたいんですよ」

そして、11月からは東名阪のライブハウスで開催するツアー「平岡優也 Tour2022『∞-infinity-』」も決定している。

「ライブハウスでの東名阪ツアーは初めてなんです。10月にリリースするミニアルバム『∞-infinity-』に収録される新曲はマストで歌わせていただくて、ぜひ遊びに来てほしい!そして、2023年にもっとライブの開催地を広げていきたいですね」 取材:東條祥恵

平岡優也



ヒラオユウヤ:1992年10月17日、秋田県秋田市出身のシンガーソングライター。親爹が撮影した路上ライブの動画がYouTubeなどにアップされ、そのうちのひとつの動画が瞬く間に900万回再生に到達し、「通行人が足を止める歌声」と話題に。22年8月に配信シングル「ソングレター」を発表後、10月にミニアルバム『∞-infinity-』をリリースし、11月からは東名阪ツアー「平岡優也 Tour2022『∞-infinity-』」を開催する。
<https://yuyahiraga.com/>



Digital Single 8/31 Release
『ソングレター』
halu records
halu-009

MUSIC SUPPORTERS

インディーズシーンを引っ張るアーティストの情報を、インタビューで紹介していきます。music UP'sのWebでは、インタビューの拡大版や過去の記事がまとめてご覧いただけます。「MUSIC SUPPORTERS」で、あなたの運命のアーティストを見つけよう！



「MUSIC SUPPORTERS」
https://okmusic.jp/ups/music_supporters

irienchy



Dr・Cho, Gu・Cho, Vo・Gu, Ba・Cho
L→R 本多響平 (Dr&Cho), 諒孟 (Gu&Cho), 宮原 颯 (Vo&Gu), 井口裕馬 (Ba&Cho)
イリエンチー:2020年1月、元MOSHIMOの宮原 颯 (Vo&Gu)と本多響平 (Dr&Cho)が新たに結成。恥ずかしいほど正直な心の声や日常に潜んだセンチメンタルな感覚を紡いだ詩と、どこかほっとするメロディー、ポップにまとまりながら攻撃的な一面のあるテクニカルな演奏など、4人それぞれの感性が絡み合い、先が読めない非凡な可能性と美学を秘めた4ピースバンド。結成同年4月に1stミニアルバム「START」、21年10月に2ndミニアルバム「〇〇者(読み:ナニモノ)」を発表。22年4月には初の全国流通盤としてミニアルバム「AMPLITUDE」をリリースした。 <https://www.iriency.com/>

夏の流星群をモチーフにした片思いソング

今年4月にミニアルバム「AMPLITUDE」で全国デビューを果たしたirienchyが、早くも配信シングル「ヒトミシリ流星群」を完成させた。今作の作詞は井口裕馬 (Ba&Cho)、作曲は井口と本多響平 (Dr&Cho)の共作となっている。

「サウンドのイメージだけで僕がざっくりとしたデモを作って、メンバーに投げたのが最初です。2021年の終わりに頃にはみんなでも共有していました」(本多)

「そのまま手かずで眠っていたので、僕がメロディーと歌詞をつけてみる流れになりました。以前に「海底」(2021年10月発表のミニアルバム「〇〇者」収録曲)という曲で生まれて初めて作詞作曲を担当したんですけど、作りながらサウンドのほうに傾倒しがちなところがあったんですね。だから、歌詞を大切に曲作りをトライしてみたくて」(井口)

具体的な世界観については、バトンを受けた井口が作っていったという。「ロック調のサウンドだった響平のデモに対して、まったく合わないような歌詞をあえて当てはめてみたり、試行錯誤するうちに夏の流星群をモチーフにしたラブソングに行き着きました。夏の流星群ってかなり光が強く、スピードが速いのが特徴らしいんですけど、それが思春期の恋愛経験に似ていると思ったんです。ウズウズして気持ちがすごく燃え上がった反面、振り返ってみると一瞬で過ぎてしまった感じなので。そんなほろ苦さも込めた曲ですね」(井口)

「でも、裕馬からもらった第一稿の音源はめちゃバカだったんですよ！ 特にAメロはぶっ飛びすぎていて理解不能だったんで、何度か裕馬に直してもらいました。自分の感情と照らし合わせて納得がいくものじゃないと、やっぱり歌えないですからね。だけど、サビは最初からスッと入ってきて、聴いた瞬間に「絶対にいい曲になる！」っていう確信があったんです」(宮原)

歌い出しの「わかってるんだよ」も、後悔と諦めと希望が混ざったようなニュアンスがあって印象的だ。

「僕も大好きな部分です。分かっていないけれど「わかってるんだよ」と言っているんですよ。この主人公は、片思いした時って“どうせ無理だろうな”とか、結果がほしい予想できていたりするじゃないですか。でも、どこかでうまくいく可能性を願わずにいられない自分もいる。「ヒトミシリ流星群」はそんな経験がある人に共感してもらえそうな片思いソングになったと思います。恋愛のどうしようもないモヤモヤを、“あんなに人を好きになれて良かった”という気持ちを、歌と音で絶妙に出せましたから」(宮原)

アレンジも流れるような展開となっていて、以前よりグッと聴きやすくなった。

「実は初めてアレンジャーさんに入ってもらい、共同プロデュースのかたちをとりました」(諒孟)

「宇多田ヒカルさんをはじめ、幅広いアーティストの方々とお仕事をされている西平 彰さんと作業させていただきました。そういった挑戦をすることでirienchyがもっと良くなる気がしたし、実際ものすごく勉強になりましたね」(宮原)

「コードの選び方とか、歌に対しての裝飾音の当て方とか、リズムの作り方とか、いろんな切り口を教えていただいて、発見だらけでした」(諒孟)「より削ぎ落としたアレンジにできたんじゃないかと思えますね」(井口)「BPMは決して速くないんですけど、疾走感もじんわりとある曲なので、ドラマはノリやすさをキープしつつ、あまり余韻を残さないように叩きました」(本多)

そして、9月から10月にかけては「irienchy秋のミニツアー 2022 ~What a wonderful house!~」が開催される。

「これまでの自分たちがダメだったなんて言うつもりはないんですけど、そう思っちゃうくらい今のirienchyが仕上がってきているので、たくさんの人に観てもらいたいです」(宮原)「“なんて素敵な家なんだ！”というタイトルのとおり、お客さんもお相手も引くくくめで参加して良かったと思ってもらえる温かいライブにしたいですね」(本多)

「ライブを重ねることに、友達やかがわってくれる人が増えたりして、そういう中で生まれた僕たちの変化を感じ取ってもらえたら嬉しいと思います」(井口)「ツアーを楽しみながら、目の前にある壁をぶち壊していきたいです」(諒孟)

「一本一本のライブで想いをしっかり伝えたいですね。当たり前のことができない時期があったからこそ、絶対に後悔しないライブをしたい。あと、僕がirienchy結成前にそうだったように、悩みをなくすために生きている人って多いと思うんです。そんな経験をした自分がどうしたいかと思ったら、やっぱり“悩みをなくす”みんなを笑顔にするために生きたいなって、軽くとらえられてしまいがちだけど、そこはちゃんとやっていきたいです。来てくれた人たちに楽しんでほしい気持ちは、他のどのバンドにも負けません」(宮原)

取材:田山雄士

Night Glory



Album 8/10 Release
「if one mislaid.」
Night Glory
WTMH-1001
¥1,800 (税込)
L→R 四月 (Ba&Cho), けいや (Gu&Cho), 桃 (Vo&Key), たけ (Dr&Cho)
ナイトグローリー:2014年に活動開始。破壊的で激情的なバンドサウンドに、儂いピアノサウンドと切ないメロディーが合わさる4ピースオルタナティブロックバンド。22年8月に1stアルバム「if one mislaid.」をリリース。愛知県岡崎市を拠点に、名古屋、東京、大阪などのライブハウスで活動中で、10月9日に愛知・安城 Radio clubで行なわれる「おかざきケン ディーズワールド」、11月5日に東京・大塚にて開催のサーキットフェス「The Outlery主催「東京 type」」への出演が決定している。
<https://night-glory-01.jimdofree.com/>

ルーツと変化を投影した1stフルアルバム

愛知県岡崎市を拠点に、東名阪のライブハウスで活動中の4ピースバンド・Night Gloryが念願の1stフルアルバム「if one mislaid.」をリリースした。2014年末から活動を開始し、メンバーチェンジを経て2018年末に現在の編成となった彼ら。それ以降もバンドには多数の変化が訪れた。まずひとつは、作曲を担当するけいや (Gu&Cho)がオルタナティブロックやシューゲイザーへ傾倒したことだ。

「僕はMr.Childrenが大好きで、ミスチルに一時だけファズを使う曲があって“ポップスでもファズが使えるんだ!?”と興味湧いて買ってみたんです。それが3年ぐらいい前で、ファズの持っている破壊的なサウンドに惹かれていって、オルタナティブロックやシューゲイザーに出会ったんです」(けいや)

同時期に地元である岡崎以外の土地でもライブを行なう機会が増え、そこでオルタナ/シューゲイザーバンドとの出会いを果たす。

「実際にオルタナやシューゲイザーを取り入れたバンドのライブを観たことが、Night Gloryの曲作りに対するモードが変わる大きなきっかけになりました。ファズにさらにリバーブやディレイを重ねた時にしか得られない陶酔感が気持ち良くて、どんどんのめり込んでいきましたね」(けいや)

唯一のオリジナルメンバーである桃 (Vo&Key)も、そんなけいやの変化に好意的だった。

「私がきのこ帝国みたいな音の雰囲気が好きだなと思っていたタイミングで、けいやがオルタナやシューゲイザーにハマりだしたんです。ちょうど自分もそういうのがやりたいと思っていたところだったし、なんとなく自分の歌声に合う音楽性はオルタナやシューゲイザー方面なんだろうなとも感じていた。だから、“いいじゃん!”という気持ちしかありません」(桃)

音楽性の変化からほどなくして、桃はキーボードヴォーカルへ転向。曲作りの最中にピアノを入れる案が浮かび上がったことが理由だという。

「母がピアノの先生だったのもあって、小学校の低学年までピアノをやっている。ピアノをやめてからだいぶ時間が経っているし、バンドでどう合わせればいいのかも分からないけど、“試しにちょっとやってみようか”って感じで弾いてみたら、私はギターよりピアノが好きだと気づいて、完全にシフトチェンジしました」(桃)

その後、ホームである地元ライブハウスの閉店、コロナ禍などの環境の変化があった中で「if one mislaid.」を完成させる。配信リリースさ

れた「dead piano」(2021年3月)、「key」(2021年9月)のリレージバージョンなど全8曲を収録した今作は、バンドのルーツであるJ-POPやJ-ROCKに、現体制になってからの約3年間で手に入れたピアノロック、オルタナティブ、シューゲイザーの要素が加わった作品となった。

「レコーディングの最中に曲を作ったりもしていたので、バンドの変化が反映されたアルバムになりました。一貫していたのは打ち込みを一切使わず、全部アナログな手法で録ることでした。環境音はもともとある素材ではなく、自分たちで録音してきた音を使っていて、そういう意味でも時間をかけた制作でした」(桃)

「オルタナティブロックやシューゲイザーをやっているインディーズロック系のバンドは、ちょっと反商業主義的な傾向がある気がして。そんな音楽性だけじゃなくって精神性にも惹かれて、先人の影響からアナログな機材を使ってレコーディングをしました。現代的な音ではないかもしれないけど自分たちの好きな音にできたし、ひとつひとつの音にこだわったのも面白かったです」(けいや)

けいやが作曲し、彼がつけた仮タイトルや曲作りの際に思い描いていたものからインスピレーションを受けて桃が作詞をする。彼女の描く詞世界は彼女がとらえたアニメや映画の世界、自身の過去や未来、違う世界線の自分など、想像の先にある世界が多い。

「今の人生に後悔をしているわけではないけど、“違う人生を歩んでいたらどんな楽しみを見出していたんだろう?”と考えることがよくあるんですね。歌詞でよく“夢”という単語を使いがちなのは、自分のそういう性質が影響していると思います」(桃)

1stフルアルバムをリリースするという大きな節目を迎えたNight Glory。この先に懸ける想いもアツい。

「最近演奏に集中してライブができるようになったと感じるので、観てくださる方々にも曲をじっくり聴いてもらえるようなライブができていとも思っています。アルバムを作ったことでやりたい音楽の方向性が定まってきた実感もあるから、これまでのNight Gloryを知っていた人には今のNight Gloryを知ってほしいし、音楽が好きな人にもっと私たちの存在を知ってもらえたらいいなと思っていますね」(桃)

「すでに次のアルバムに向けて大まかなテーマを考えています。これからのNight Gloryもぜひ注目していただきたいです」(けいや)

取材:沖さよこ

EDITOR'S TALK SESSION 34



今月のテーマ：音楽シーンのために裏方ができること

今回は東京・下北沢 CLUB Que を運営する二位徳裕氏と、埼玉・北浦和 KYARA 元店長の THE 安藤(父アサシン / 母美智子)氏を招いて座談会を実施。それぞれの YouTube チャンネル『QueTube』『移動するライブハウス KYARA(概念)』を使って定期的に動画投稿を行なっているふたりだが、ビジネスとして成立させるには難しいことに取り組み続ける理由は何なのか？ その根本にある想いを語ってもらった。

座談会参加者



二位徳裕

1988年にインクスティック芝浦に入学し、当時最高レベルのロックシーンを経験させてもらったあと、下北沢屋根裏で店長を担当。94年よりCLUB Queを運営。



石田博嗣

大阪での音楽雑誌等の編集者を経て、music UP's & OKMusicにかかわるようになる。編集長だったり、ライターだったり、営業だったり、猫好きだったり…いろいろ。



岩田知大

音楽雑誌の編集、アニメイベントの制作、アイドルの運営補佐、転職サイトの制作を経て、music UP's & OKMusicの編集者へ。元バンドマンでアニメ好きの大阪人。



THE 安藤(父アサシン / 母美智子)

2020年1月、店長として10年間勤めた北浦和 KYARA が閉店。現在は「移動するライブハウス」として、埼玉のインディーズバンドをサポートしている。



千々和香苗

学生の頃からライブハウスで自主企画を行ない、実費でフリーマガジンを制作するなど手探りに活動し、現在は music UP's & OKMusic にて奮闘中。



自分が発信して 続けていかなきゃいけない

千々和: おふたりが運営されている YouTube チャンネルは、音楽業界の裏方ならではの企画が多いことが共通していると思います。ライブハウスが生配信ライブのためにチャンネルを作るという流れがあったので、2020年は音楽業界でも YouTube が盛り上がりつつあったけど、徐々に生配信ライブが減ってきて、今はチャンネル運営が止まっていることが多い印象です。

二位: 儲からないし、ネタが尽きた方もいるでしょうね(笑)。

安藤: 労力に見合わないんですよ。ペイバックが確実にあるものではないし、自分で運営してもそう思います。

石田: 映像編集自体がいきなり始めようとしてできるものでもないんで、続けていくにはハードルが高いでしょうね。やりたいことのできることのギャップも大きくなっていくだろうし。

千々和: おふたりがそれを今も続けてらっしゃるのはどうしてですか？

二位: そうですね…始めたからには続けたいといけないうえ、コロナ禍もまだ終息して

いないからね。自分のライブハウスがそれで儲けようとか視聴数を上げようという考えはあまりなくて、ロック全体を盛り上げる方法のひとつとして、こういうやり方もあるということが広がってくれたらいいなとは思いますが。僕はロックに対して、演奏だけに特化しすぎていることに懸念を抱いているんですよ。そのバンドを知っている人は好きなままでもいられるけど、ロックやライブハウスに興味を持っていない人がライブハウスに遊びに来るきっかけが作れない時代になっていると。エンタテインメントの面白さをうまく使っている人は音楽業界以外にもたくさんいるし、他業種の動画の再生数やチケットの販売数が伸びているという状況を目の当たりにした時に、「昔はロックの人がこういうことを積極的に取り組んでいたのに、今はロックの人が一番やらなくなったな」と思ったんです。だから、自分が発信して続けていかなきゃいけないと考えて続けている気がします。音楽に入る手前のカルチャーみたいなものを作っていくと、ロックに先がないんじゃないかと思ってしまうんですよ。

安藤:僕は今39歳なんですけど、僕の時代でもインディーズバンド図鑑的なムック

本を買って、バンドの情報を集めたりして勉強していたことがあったんですよ。そんなことを思い出しつつ、今はそういう本を出したとしても、読者は好きなバンドや知っているバンドのページしか読まない時代だと思えます。それって YouTube も一緒じゃないですか。自分の目当てのチャンネルしか観ないし、ゲームが好きだったらその関連のものしか観ない。それは時代の流れだから仕方ないと思うし、なんなら昔からそうだったとも言える気がします。まず誰かが集めた情報を得て、その先をもっと知りたいと思える人間が深入りしていくイメージなんです。YouTube を通して自分自身が影響力を持ちたい気持ちもなくなっているんですが、僕が全てじゃなくていいんです。レコード屋で自分好みのレコード探して「見つけた！」っていう、あの宝探し的な楽しみは今もあるはずなのに、探すとする人が少ない時代なので、「自分で深掘りしていくきっかけになれないな」という思いが、僕が YouTube をやっている原動力のひとつだと思います。僕の動画を観て「俺もやってみたい！」「私ならもっとうまくできる！」とか、そんなことを思ってもらえたらそれでいいん

です。そもそも裏方ってそういう思いつきを発信することで、誰かがついてくるような役割じゃないかなと。

楽しい挑戦ができるのが ロックだった

千々和: YouTube は労力には見合わないけど、おふたりとも「主役は自分ではないけど、おふたりとも」主役は自分ではないというスタンスだからこそ、裏方の仕事の一環として続けていると。それにしても、安藤さんは電動キックボードで北浦和から富士山まで移動したり、1カ月間の雪山修行に出たりと、裏方らしくらめ身体の張り方をしてますよね。

二位: 安藤さんは小さい頃からバカな遊びが好きだったりするんじゃないですか？

安藤: めっちゃ好きでした(笑)。

二位: 例えば、野球をやるにしても野球部に入るとやるんじゃないかって、放課後に稲刈り後の田んぼとかでとかで友達と集まってやる野球が好きとかね。やっていくうちに「セカンドベースはいらんんじゃない？」みたいな話が出て、独自のルールでやるのが面白い的な。

安藤: 分かります！ニューベースボールが生まれるんですよ(笑)。

二位: こういう楽しい挑戦が実現できるものがロックだったという感覚があるんですよ。型にはまらない発想で遊べるみたい。僕はそれが楽しいと思って過ごしていたら、なぜかライブハウスの人になっちゃったんですよ。

安藤:僕は16歳から20年以上、バンド活動やライブハウスの運営で音楽にかかわっていますけど、音楽を始めた頃はインディーズバンドが飽和状態になるくらいに活動していたんですよ。あの時はお金になるからバンドをやっている人が多かったんですよ。

二位: そうそう！安藤さんの世代のバンドはそういう考えがあったよね。バンド活動に関しては、取り組み方がだいたい3種類あると思うんですよ。趣味やバイト感覚だったバンドはすぐに辞めちゃう。自分で会社を起こしたり、お店を作ったような感覚のバンドは続けるしかない。あとは、仕事やお金に余裕があるからバンドも楽勝でできるという人。活動が食い口になっている人は死ぬに物狂いで続けていかなきゃいけないって、最近はその差が世代によって出てきた感じがしますね。

千々和:二位さんはその3種類で言うな

ら、やるしかないモードになるんですか？
二位: だって、止めたら終わっちゃいますから(笑)。これは笑い話ですけど、年末年始は何カ所のライブハウスに出られるかっていうのをバンドが競い合う風潮があるのに、10年くらい前から「家族がいるから大晦日は家で過ごしたいんですよ」というバンドが出てきたんですよ。その時は「いや、俺にも家族がいるけど…これで生きてるからやるんですよ」と思って。でも、コロナ禍に入って初めて大晦日を家で過ごすことになったら「意外といいね。むしろ、大晦日は家で過ごすっていう気持ちに2秒だけなったり(笑)。そういう隙間感って少し出ますよね。けど、これで生きてるから！

続けることで新しい種が 生まれるきっかけになる

岩田:安藤さんは動画でご自身のことを「フリーター」と紹介していて、生活を削ってでも活動をしている印象があるのですが。

安藤:2020年に青春を注ぎ込んだ自分のライブハウスがなくなってしまい、そのあとにコロナ禍になったんですよ。北浦和 KYARA は経営不振で潰れているからこそ、生活が苦しくなると分かっている段階から今の活動がスタートしているんですよ(笑)。僕はイベント企画が本職ではないから、必ず開催しないといけないものではないけど、ライブハウスがなくなった経験が生活を度外視してでも頑張れるモチベーションにつながっていて、健やかな気持ちで今を頑張れていると思います。

石田:安藤さんにはコロナ禍に入ってクラウドファンディングを途中で諦めたことでしたが、それは世の中の状況を見つつ判断されたのですか？

安藤:「新しいライブハウスを建てよう」と言ってくる声が大きくなるにつれて怒りが大きくなって、「自分たちの希望のために、何で僕が動かなくちゃいけないんだ！」というモードになったというか…僕自身、そもそもクラウドファンディングはしたいと思っていなかったんです。コロナ禍で状況が変わった時に辞めたいと思ったんですけど、そうは言ってもすぐに辞められないくらい数の人たちがかわかってくれたから悩みました。僕がお金を持っていて、クラウドファンディングをしなくてもいいならそれが一番良かったし、誰かに援助してもらってライブハウスを立て直すのも良かったんですけど、それは本当はしたく

なかったことなので。結局のところ、自分が新しいことを始めるよりも、周りのライブハウスがクラウドファンディングで踏ん張ろうとしているなら、そこに投資するほうがよほど業界のためになるなと思いました。

千々和: おふたりは自分自身のことよりも「自分の行動が音楽シーンにおいてどう影響するか？」という視点を第一に持っていると思いますが、正直言ってそんな人ばかりではないので、その信念を持って活動を続けるのって難しいことも多いのではないかと思います。

二位: その箱の経験値や運営者の立ち位置でも感覚が違うかもしれないですね。だから、音楽業界の小さな疑問を YouTube で発信してみたいと考えることもあります。それをすることで「誰かに迷惑がかかるかな？」とか考えてしまうから難しく。でも、音楽シーン全体がビジネスに寄りすぎず、現場感だったり、柔らかい考え方や疑問を発信したいとなると、若いバンドに悪影響を与えてしまうと思ったりもしますよ。きれいだとか都合のいいところだけを見て、足元が見えなくなる子たちもいるし。「がむしやらにやってきましたらでも楽しい結果になった！」とかが大事で、それがつながって収入になったというドラマもあると思うので、どどんと挑戦してほしい気持ちはありますし、その現実を発信しなければいけない気もしています。まあ、そこについては安藤さんにお任せしてね(笑)。

安藤: あははは！頑張りますけど(笑)。
二位:一緒に頑張りますよ！怒られ役や嫌われ役に立ちなから頑張り人がいるから先を進めるはずなんです。

安藤: そうですね。恐れずに発信しようと思います。

二位: 悪口とかではなく、愛がある内容で発信ができればいいよね。でも、ロックの発展もそうやって反動を受けながら新しいものを発信して進んできたので、YouTubeでの発信を続けることで、きっと新しい種が生まれるきっかけになると思います。

下北沢 CLUB Que
東京都世田谷区北沢 2-5-2
ビッグベニビル B2F
YouTube チャンネル『QueTube』▶



移動するライブハウス
KYARA(概念)
◀ YouTube チャンネル

■ 聖飢魔 II ■

「music UP's Q!」の質問をした際、ルーク童参謀は「この質問だと、俺はJ SPORTS CYCLE の『公式悪魔』を務めているからサイクルロードレースから選ばなくてはな〜。それと言えば…」という話からヒーローにクリス・フルームを挙げた。さすがは公式悪魔であられるので、クリスがどれほど苦しい想いをし、今の戦歴を残すことが偉大であるかについて数分間詳しく教えていただいた。その熱量のある話の次ということもあり、「それだと、俺もスポーツ界から選ばないと(笑)」とイチローを選んだジェイル大橋代官。「彼はプロ野球だけでなく、草野球にも参加し、プロもアマも関係なく野球の楽しさを伝え続けている。プロ選手としての現役時代も常に輝いていたし、〇〇の試合ではさ〜」と代官もすごい熱量で話が終わらない。悪魔はみなスポーツが好きなのだろうか？(笑) そんな気がしたので、次回は全構成員に話を訊いてみたいと思う編集部・岩田だった。

■ 内田雄馬 ■

内田雄馬が「music UP's Q!」で自分にとってのヒーローを「お父ちゃん」と答えたことから、そのエピソードにライターの樽林史明さんが「所ジョージさんやヒロミさんみたいなお父さんなんだろうね」と加わり、さらに話が発展。「あ〜…そんな澁刺とした感じはないですけど(笑)。オタクっぽくて、ゲームが好きで…そういうところは僕と似ていますね。本人たちは分からないんですが、喋り方とか声もそっくりだそうです(笑)」とさらに盛り上がった。あと、「今、いらぬ荷物をお父ちゃんの家に戻かってもらっているんですけど、そろそろ回収しないと邪魔だろうなって。そう思い続けて一年くらい経っています(笑)」とも、内田の父親への愛情が垣間見れた時間でもあったことは言うまでもないだろう。

■ オメでたい頭でなにより ■

「music UP's Q!」の質問に対して、それぞれ祖父母を挙げていた赤飯と324。しかし、赤飯よりもひと足早く現場に到着した324は「ヒーローは両親です！」とか言えたらカッコ良いですね。外国人の方がそう答えているのはさまになるけど、自分だと何か恥ずかしいと思っちゃうのと言えないです」と話していた。そんなこともあって「忍者戦隊カクレンジャー」をチョイス。「当時はテレビで観ていて、イエイ！となっていた世代なので」という理由まで決めていたが、赤飯が語った祖母に対するエピソードを聞いて、「そんなん言うんやったら、僕はおじいちゃんにしてみたいですか？」と食い気味で前置撤回したのだった(笑)。

■ GLAY ■

取材終了後、HISASHI が編集部の石田を見て「上條先輩、アツイですね」とひと言。上條淳士の代表作である漫画「To-y」のTシャツを着ていた石田が「To-y」は読んでいました？と尋ねると、「むちゃくちゃ読んでいましたよ！」と熱のこもった返答が。アーティストにもファンが多だけに、やはり「To-y」はバンドマンにとって、ある種のバイブルかもしれない。読んだことのない方はぜひ！

■ 牧野由依 ■

今はインタビュー中でも会議室の扉は開けたままのことが多く、それは牧野由依の取材時も例外ではなかった。当然廊下を行き来する人の姿も見え、逆に見られるわけだが、『あなたとわたしを繋ぐもの』収録の「幸せのメロディ」の話で、同曲を手がけている北川勝利の話になった時、じっと室内を覗き込む人が！ 驚いた牧野が言った言葉が、なんと「えー!? 北川さん！ 今、ちょうど北川さんのことを話していたんですよ」。そう、ご本人登場という奇跡的なタイミングだったのだ。30年近くこの仕事をしているが、こんなことは初めてです！(編集部・石田談)

■ ハコニワリリイ ■

1stワンマンライブ「Lily's Garden Party」の幕間で放映された企画動画にて、ハコニワリリイのふたりがユニバーサル・スタジオ・ジャパン(以下、USJ)のペアチケットをゲットしていたので、取材前にライターの一条皓太さんが「USJへは行かれたのですか？」と訊いたところ、Kotohaが「今度、ツアーで関西に行くのでその時に行こうと話しています♡」と返答。一方のHanonは「ことちゃんは大阪に一回も行ったことがないもんね。私は兵庫にいた頃は年間バスも持っていたんだよ」と、さすがは関西出身者。とはいえ、「だから、Hanonちゃんに案内は全部任せようと思います！」と話すKotohaのほうがなぜか誇らしげな顔を浮かべていた。ツアーの時期にUSJを楽しんでいるふたりの様子がSNSでアップされるはずなので、ぜひチェックしてほしい！

Vol.216は 10月20日発行予定。お楽しみに!!

9mm Parabellum Bulletの菅原卓郎さんのインタビューは、アルバムタイトルについてのコメントを読むことができて良かったです。「9」がつくバンドの9枚目ということで、「9」に絡めた言葉になるのか気になっていましたが、今回のインタビューを読んでから覗き込むうちに「TIGHTROPE」で大正解だと納得しました。調子が良い時も、ギリギリの時も、9mmの音楽は剛にいてくれると再確認できました。(20代女性:wrbmch)

岡咲美保さんの1stアルバムに関する記事は、タイトルや歌詞を御本人が考えられたとのこと、そのことに対して記者が掘り下げてくれて、知りたいことを奥深くまで知ることができました。魅力的なアルバムがより魅力的に感じられてとても幸せなインタビューでした。(10代女性:ゆうか)

「music UP's Q!」の「最近見た夢の話」は普段アーティストにはなかなか訊かない質問だし、その人の素が見えたような気がしてファンには嬉しい企画でした。(50代以上女性:ゆきんこ)

angelaのインタビューは「これでもか」というくらいにangelaらしさが出ていて笑いました！(20代男性:るっち)

和楽器バンドの「ボカロ三昧2」の記事が興味深かったです。8周年を記念して制作されたアルバムへのアツイ想い、曲に合わせてアレンジの仕方を変えたり苦労されたことなどが知れました。(40代女性:きーぽ)

GOOD ON THE REELのインタビューは、バンドが置かれている現状だったり、それでも前に進んでアルバムを完成させた想いだったり、その結果得られた新しいアプローチだったり…いろいろなものも垣間見れて、ファンにとってもとても嬉しい記事でした。(30代女性:nana)

May'nさんの記事、土曜はダッシュでお家に帰ってところが面白かったです！「吉本新喜劇」を観るためというのが部長らしいです(笑)。(30代女性:かのか)

どついたれ本舗 × Bad Ass Templeの記事を拝読させていただくためにお店で入手させてもらったのですが、普段はリーダー(白膠木彫&波羅夷空却)がメインになりがちなところをあえて麗麗森盧笙&四十物十四に焦点を当ててくださっていて、本当に貴重なインタビュー記事でした。今後もしかしら見られないかもしれないおふたりの対談、素晴らしいです。CD入手後、四十物役の梯原さんのおっしゃっていた「ふたりともいる」の意味も分かりました。曲の解釈が深まる企画をありがとうございました！(30代女性:風花)

「HeavenlyHelly」新ユニットのSeraphlightのインタビューを読んで、楽曲についてより深掘りすることができました。また、お三方から見たキャラクターのイメージを知ることができたことで、新しい魅力に気づくこともできました。素敵なインタビューをありがとうございました！(30代女性:はれや)

CHiCO with HoneyWorksさんの記事は、ちゃんとファンのことを思って活動していることが分かって嬉しかったです。あと、自分の納得のいくものを出していることも分かって、これからも推していくことを改めて決められた記事でした。(10代女性:松下ロレナ)

Peak'y P-keyの記事が面白かったです。強敵な新曲？ 色気マシマシ？ なんてこった…。発売が待ち遠しくなりました！(20代女性:猿橋由美子)

brainchild'sのインタビューが掲載されると知って、20日にタワーレコードへ行きました！ 楽しみにしているニューアルバムの制作の話が満載でとても嬉しかったです。(40代女性:Iris)

タケヤキ翔くんのインタビューはここでしか読めないことだったり、今後とも応援したくなる記事でした！(20代女性:高久美咲)

Girls²は推しグループでEP「Shangri-la」のCDも予約してリリースが楽しみだったので、曲についてのインタビューが見れて良かったです。「Shangri-la」を増田来亜ちゃんがおとぎ話のような不思議な印象と答えていて、自分はそういう曲が好きなので、さらにリリースが楽しみになりました。(10代女性:おもち)

IALOGUE+の新曲についての記事は、メンバーの曲名や歌詞に対する解釈や第一印象などが聞けて、共感することや知らなかったことがあり、面白かったです。また、曲を聴き返したいと思いました。(10代女性:YUJA@ログッ子)

今回のmusic UP'sをきっかけにくじらさんを知りました。昨今はコラボを例にしてもヴォーカリストがより注目されている時代な気がしていますが、作曲家としての面が強い方をインタビューを通して発見し、また新しい世界観を知ることができて面白かったです。(20代男性:バスル)

PENTAGONのインタビューは日本の雑誌は話を深く掘り下げる傾向があるので、彼らの音楽に対する最近の想いや知らなかった過去を知れて良かったです。また、真面目なインタビューの最後に、最近見た夢の話というギャップのある質問も面白かったです。(30代女性:やんずみん)

music UP's 読者プレゼントコーナー



各1名様にプレゼント!!

- ▼ノベルティ
- 1. 聖飢魔 II (直筆サイン入りポスター)
- ▼直筆サイン色紙
- 2. 内田雄馬
- 3. オメでたい頭でなにより
- 4. MORRIE
- 5. DAIDA LAIDA
- 6. メトロノーム
- 7. ゆいにしお
- 8. ムーンライダーズ + 佐藤奈々子
- 9. GOD & SIZUKU
- 10. 高野麻里佳
- 11. ハコニワリリイ
- 12. 白井悠介
- 13. 牧野由依

※ Vol.215の締切は 10月19日。当選者の発表は発送をもって替えさせていただきます。

▶ 読者プレゼントの応募やコメントは Twitter & 読者プレゼント専用フォームから ◀

★ Twitterからの応募

1. music UP'sのTwitterアカウント (@music_ups) をフォロー。
2. 希望のアーティストの直筆サインプレゼントについてのツイートをリツイート。

※いただいたコメントは「Listener's Voice」内でご紹介させていただく可能性があります。
※当選者にはDMにてご連絡させていただきます。

music UP's Twitterアカウント ▶ https://twitter.com/music_ups



★ 読者プレゼント専用フォームからの応募

music UP's 読者プレゼント記事よりご応募ください。コメントもお待ちしております♪

※いただいたコメントは「Listener's Voice」内でご紹介させていただく可能性があります。
※当選者にはメールにてご連絡させていただきますので、予め「@music-ups.jp」のドメイン解除をお願いします。

music UP's 読者プレゼント記事 ▶ https://musicups.page.link/2/209_present



LISTENER'S VOICE

~ POWER TO THE MUSIC ~



新型コロナウイルス感染拡大の影響でライブやCDのリリースが中止/延期となったことを受け、編集部では音楽ファンの声を集めた特別企画「Listener's Voice ~ Power To The Music ~」を実施。SNSでそれぞれの想いを発信できる時代ではあるが、それをひとつの記事として届けたいという主旨から生まれた同企画では、音楽ファンが抱えている今の気持ちや、アーティスト・音楽業界に向けてのエール、音楽の魅力などを募集し、フリーマガジン「music UP's」、またはWebサイト「OKMusic」にて発信している。

私にとって音楽は居場所です。

10代の頃から学校や集団、家庭が苦手で、馴染めずにいました。そんな私にとって音楽はイヤフォンをつければ味方してくれたし、ライブハウスは居場所になっていました。

(20代・女性・ちゆき)

大好きな音楽に浸ることにより、日々溜まるストレスから解放されます！音楽の力って本当に偉大です！

(40代・女性・ちいぢいどん)

音楽はクスリや酒みたいに身体を悪くせず、人を元気にして、時にはつらい時期を慰めてくれる。全世界的に大変な時期がまだまだ続いています。音楽を聴きながら自分の立場で耐えている人が多いと思います。

(30代・女性・ジャンハナ)

音楽は【刺激】【慰め】【エール】

(50代以上・女性・あつまき)

音楽と人生をともにしている。

(40代・女性・芳)

音楽は私にとって生活の一部！ロックがあって私がある！

(40代・女性・ぶみ)

アーティストの紡いだ想いを受け取って、共感したり、反論したり、自分自身に問いかけたり。それで“私、生きてるなあ”って思う。自分には到底できない楽器演奏を聴くのも心が豊かになる。そんなアーティストにたくさん触れたらきっと人生が楽しい！

(40代・女性・ちーま)

音楽は自分の世界に入れるもの。

(50代以上・男性・masa)

もっといろんな音楽に触れたい。

(20代・女性・がっきー)

音楽は趣味でもあるし、人生でもありますが、それも超えて自分を構成している細胞の一部だと思っています。新曲が出るから、ライブがあるから、もうひと踏ん張り…とコロナ禍でもなんとか頑張っています。素敵な音楽に触れたあとには幸せなオーラに守られているような、スターを手に入れたマリオのような無敵状態で、どんなことにも立ち向かっていけます。ライブがなくなってしまった時期は絶望感に打ちひしがれた時もあったけれど、その中でもできることを全力で音楽で表現してくれたアーティストのみなさんには感謝しかありません。音楽がきっかけで大切な人ともつながることができました。音楽なしでは生きられないし、音楽がない生活を送っている自分はもはや自分ではないです。これからも誇れる自分であるために、もっともっと音楽を楽しんでいこうと思います！

(30代・女性・hommy)

最近はエンターテインメント界もコロナに負けず活発になり、ライブなどのイベントも増えて日常に戻ってきているのでとても嬉しいです。また目の前にいるアーティスト、アイドルに大声で愛を叫べる日が来てほしいです！

(30代・女性・みんと)

音楽はみんなを笑顔にしてくれるおまじない。つらいことがあっても音楽を聴いている時は忘れられるし、そのアーティストのファン同士でのつき合いも増えて、日々がすごく楽しく幸せになります。

(20代・女性・古山愛里子)

現在子育て中でやらなきゃいけないことがたくさんある。なのに、なかなか動き出せない…。そんな時は元気な曲を聴いてテンションを上げます！

(20代・女性・ゆり)

音楽=やる気スイッチ

(10代・無回答・とまと)

音楽は推しと私の架け橋。

(10代・女性・ニコ)

Being a universal language, music has always been humankind's collective source of strength and healing. Celebrating music and recognizing its power moves this generation forward and onwards. To hope-filled future and sense of meaning. As fans and music-lovers, we need to up our antes and become more active in pursuing this power in music, because only then can we heal.

(40代・女性・@alexkate_may)

まだまだ音楽ファンからの声を募集中！

参加ページはこちら▶



TICKET INFO

チケットぴあ L ロソンチケット e イープラス LP LivePocket T TIGET

http://www.shibuya-o.com

BRAND-NEW BAND STORY

BRAND-NEW BAND STORY
クランプリバント

10.21 fri. Spotify O-EAST

OPEN 17:30 / START 18:30 ALLSTANDING ¥6,000

Spotify O-Crest

MARSBERG
SUBWAY SYSTEM

GRAND FAMIL' ORCHESTRA

2022.10.10
It's ROCK'N'ROLL

OPEN 18:00 / START 19:30

「Hello, my darkness」
release tour
"暗闇よこんにちは"

HELMIKI
Lambda
Club

2022.9.26 (mon.) @Spotify O-EAST

OPEN 18:00 / START 19:00
TICKET ¥4,000 (+1D)

HAGANE
[Code : 9021] TOUR 2022

2022.10.29 (Sat)
Spotify O-WEST

ADV. ¥4,800 (+1D)

YAPI RAWR! BARKS!

Wieners

2022.7.20 Release!
New Album TREASURE
TREASURE TOUR 2022

FABLED NUMBER

DORF
DIE ORCHESTRES 2022

2022.10.09

榮喜 LIVE TOUR 2022「榮喜道V」

DAY1 2022.10.15 (Sat) OPEN 17:15 / START 18:00
DAY2 2022.10.16 (Sun) OPEN 16:15 / START 17:00

@Spotify O-WEST ADV. ¥6,000 (+1D)

Spotify O-Crest presents

Awa moon
RAKURA / ROI-RGE / SHUGAR
and more...

2022.10.14 (Sat)
OPEN 18:30 / START 19:00
TICKET ¥3,000 (+1D) ¥4,000 (+1D)

アルカラ 20周年記念 2マンツアー「産声」追加公演

10.7

アルカラ
LACCO TOWER

O-Crest

open 18:30 more 19:00
adv. ¥5,000

BRATS - Spiderweb

2022.10.8 (Sat) Spotify O-WEST

ADV. ¥4,300 (+1D) ¥4,800 (+1D)

DOTAMA
2MAN LIVE

村松 幸平
SHAKU JIREI VOL.22

DOTAMA / 肩村あき
2022.10.15 (SAT)
SHIBUYA Spotify O-nest

OPEN 17:30 / START 18:00
ADV. ¥4,400 (+1D) / DAY ¥5,000 (+1D)

※新型コロナウイルス感染拡大状況や、政府や自治体からの要請によっては、中止・延期となる場合や、公演内容が変更になる可能性があります。最新情報は、各公演のお問合せ先やホームページ等でご確認ください。

Spotify O-EAST TEL:03-5458-4681 Spotify O-WEST TEL:03-5784-7088
Spotify O-nest TEL:03-3462-4420 Spotify O-Crest TEL:03-3770-1095

俺の楽器 私の愛機

Musical Instruments & Love Machine

「音楽を聴くだけなんてもったいない」という思いを胸に、楽器の総合情報ポータルサイトを目指す新メディア「楽器人(Gakk! Beat)」。「俺の楽器・私の愛機」のコーナーでは、皆さんご自慢の楽器を募集！ 本記事では応募いただいた投稿から3つの楽器をピックアップし、編集部コメントとともにご紹介。



ピックアップ記事の全文はこちら▶

楽器人 GAKKI BEAT
「俺の楽器・私の愛機」の応募ページはこちら▶



【自作】

「天邪鬼ギター」

(宮城県 サイコパス白山 31歳)



人の逆を突き進みたい私は、ギターキットを買って絶対に他の人と被らないギターを作することにしました。「レフティストラトに逆らってレフティテレキャスターに」「世の中のネジは大体プラスだからマイナスネジに」「なんとなくステンレスフレットに」「リアのみはありがちだからフロントのみに」「塗装しないでラッカーツィード貼り」

16歳の頃、メキシコテレキャスターの塗装を塗り直そうとして粗大ゴミにした思い出があります。去年、突っ張り棒で部屋に収納を取納を増やそうとしたら突っ張り棒で壁をぶち抜いてしまいました…。それぐらい不器用なので今回のギターも、見る人が見たら相当ダメ出しを食らいそうな出来です。ですがめっちゃくちゃ気に入ってます！

【編集部コメント】 なるほど、その手があったか、ツィード・テレ、これは良すぎる。写真を見る限り不器用にも見えないけれど、自作でここまでやっつまえるんだから凄い。これ見て刺激受けるギタービルダー、たくさん居る気がします。ツィードケースからこれが出てきたら声が出ちゃうよ。ギターケースの取っ手が付いていたら爆笑だな。コントロールはひとつもないけれど、これはピックアップからジャックに直列？ (JMN統括編集長 鳥丸)

「ギター制作キット」 (兵庫県 OKD Guitar's 36歳)

【自作テレキャスター】

コロナ禍でエフェクター等を作り初め、その後エレキギターも作りたくなり、去年制作したものです。ネックとボディはギター制作キットの物を使用し、それ以外のパーツは替えています。キット代約8,000円！ピックアップはFender Pure Vintage '64、ブリッジWILKINSON、ペグはキクタニ、ネックプレート フリーダムカスタムリサーチです。パーツ代の方が高いです。

塗装はダイソーのラッカースプレーを使用しています。この成分がアルキド樹脂というものみたくて、昔のFenderの塗料に使われていたとかないとか。(適当です) 1年程使用して塗装が剥がれてきていますので、ラッカー特有ですね。現在は2本目制作中です！



【編集部コメント】 極薄塗装がかっこよすぎた。そうなんだよ、コロナ禍によってDIYものが凄く増えてきていますよね。自分好みにカスタムできるなんてギター好きにとって一番楽しいことだから、DIYはハマると抜けられないでしょう。金属加工に造詣が深い輩であれば、きっとパーツ類もワゴンオフでヤっちまうんだろうなあ。GAS発症の楽器人の行き着く先ってそこののでしょうか。(JMN統括編集長 鳥丸)

【MUSICMAN EVH Signature】

「ピンクの原点であり、終着点」

(大阪府 おっか 39歳)



自身にとってのMUSICMAN EVHのアイコンはB2の松本氏が所有されているピンクのあの個体。以来20年以上経過するも、初めて見た時の衝撃は色褪せず、ほいで憧れも薄れず…そんな中、縁がありAXISではなくレア中のレアと称されるトランスピンクのEVH Sig.を2本も所有することが叶うも、それでもやはりあの超絶ワイド且つ独特な歪のキルトの個体が欲しいという気持ちは治まることなく…ほいたら作ったれ!!と、ここでまた一大決心。本物のEVH Sig.を1本犠牲にして1トッしてやろうと。

国内の木材屋を風漁しに当たれど当たれど見付からず…翻訳アプリ片手にアメリカの木材屋にも凸しまった未、奇跡的に掘り当てた理想的な歪の材！ 木取りを決めるだけでも白髪になりそうなくらい悩み、色味を決める段階ではハゲそうになり…ほんで首を取れてまいそうなくらい伸ばして待った…甲斐があった!!

アップリセスの形状やサイズも再現し、ノブは勿論スリットが入った独特な形状のトグルスイッチナットも苦勞の未無事入手…細部に渡り完全再現！ 1995年、中学1年生の頃から27年間ずっと憧れてた「あの個体」と瓜二つのギターを手に入れることが出来た。いまだに、ケースを開ける度にドキッと…浮気的な人間やけど、これだけは一生マンヤと自信持って言える!!

【編集部コメント】 世の中にはホント凄いや人がいるものです。こんな再現、普通無理やん…と、検討すらしないやん。凄すぎて写真見ただけで売れた。脱帽&脱毛です。「人間諦めたらあかん、やれば何でもできる」というじっちゃん言葉の言葉を胸に刻みます。(JMN統括編集長 鳥丸)

Key Person

ひとりでも生きていけるけど、 誰かがいたらもっと広がる

J-ROCK & POP の礎を築き、今なおシーンを牽引し続けているアーティストにスポットを当てる企画『Key Person』。第 26 回目は 2005 年に弱冠 15 歳にしてメジャーデビューし、海外でも活躍する May'n が登場。ファンから“部長”の愛称で親しまれる彼女がキャリアを重ねるうちに気がついた自分の弱さや、自分に素直になることで広がった音楽の楽しさを語ってくれた。

File 26 May'n

オーディションに受かって “やっと夢が始まった”と思った

— May'n さんは 3 歳の頃に安室奈美恵さんに憧れて“歌って踊れるアーティストになりたい”という夢を持ったそうですね。

「最初は“セーラームーンになりたい!”という感じで、本当になれるかどうかは分からないけど、可愛くて、歌がうまくて、踊っている姿も素敵な安室奈美恵さんに憧れていました。9 歳の頃に観ていた『ASAYAN』(テレビ東京で放送されていたオーディション番組)がきっかけで歌手への道を身近なものに感じるようになって、“こういうのを受けたら歌って踊れる人になれるんだ”とオーディションを確実な手段として認識して、受けてみたいと思うようになりました」

— その後は数々のオーディションに挑戦し続けて、2005 年に中林芽依名義でメジャーデビューされましたが、当時は 15 歳で、その年頃ならではの葛藤もあったのではないかと思います。

「デビューのきっかけになったオーディションを受けた時は 13 歳で、中学 2 年生の終わりくらいに事務所に入ることが決まったんですけど、“ようやく受かった”という気持ちがありました。それまでオーディションには全然受からなくて、中学生になると進路も決めないといけなくなってくるじゃないですか。両親も応援してくれていたけど、“進路を考えるために一度区切りをつけないさい”と言うようになって。そんな中でやっとオーディションに受かったから、今思えばすごく早いけど、“やっと夢が始まった”と思ったのを覚えています。でも、そこからうまくいかず、お仕事をできる日数も少なくなってきた。高校では周りの子も芸能活動をしていたから、自分だけお仕事がないまま友達はだんだん忙しくなっていくのを見て、“なぜ私は東京に出てきたのかな?”と考えたこともありました」

— しかも上京されてからは寮生活で、上げたくなったことはありませんでしたか? 「仕事がないからとにかく時間がいっぱいあったんですよ。だから、ヴォイストレーニ

ングにいっぱい行ったり、キャベツ 1 玉を 98 円で買って、それをお昼ご飯にして節約しながら作詞作曲を習い始めて、時間があるぶん今の自分ができることをやろう!”ってすごく忙しくしていました。落ち込む暇がなかったんですよ。今だったらもっと落ち込めたはずなんですけど、当時は“落ち込む暇があったらジムに行きたい!”って感じで。あの時に習ったことで今も活きていることはたくさんあるので、よく腐らずに頑張っていたと思います」

— 2008 年には TV アニメ『マクロス F』に登場するシェリル・ノームの歌パート担当に抜擢され、アニメの世界観が前提にある中で、特に『ダイヤモンド クレパス』は May'n さん自身からも染み出ているような振り絞った勇気を感じる歌声が印象的でした。

「レコーディングではシェリルのことだけを考えて、シェリルが歩んできた人生とか、抱えている状況を感じた上で歌いたいんですけど、私の身体を使って歌う以上、私の人生も自然と声に染み出てくると思っているので、その湧き上がってくる想いには蓋をせずに乗せていきたいとは常に思っています。特に『ダイヤモンド クレパス』は一番変化してきた歌だと感じていますね。最初にレコーディングした頃はまだ不安もあったし、この先の自分にどんな未来が待っているの分からないけど、この曲で頑張っていきたいという想いもありましたし、それがたくさんの人に聴いていただけて、海外でも大合唱してくれて。今は歌っているとそのいう思い出や景色が浮かぶんです。当時の不安な気持ちを思い出す時もあるし、今日の前に広がる景色に感謝をしながら歌うこともあるし、ふとシェリルが降りてきて“シェリルだ!”と思うパフォーマンスをする時もあるし、自分が“こう歌おう”と意識しなくて勝手に変化し続ける曲だと思います」

May'n の喜怒哀楽を 引き出してもらった

— 2008 年にシンガポールで初の海外イベントに出演して以降、2010 年にはアジアツアーを開催されたりと活動の規模が広がっていますが、2011 年 2 月発表のミニアルバム『If you...』に収録されている『Phonic Nation』を聴くと、“自分はひとりだ”と感じる心を大事にされているようにも思いました。

「確かに他の曲でも“ひとり”っていうのは歌詞にすることがあって、“人は必ずひとり”で生まれ、ひとりで死んでいく“みいたな気持ちで生きていた時期もありました(笑)。だから、“ひとりで強く生きねば”みいたなのがモットーだった時もある。それも間違いではないと思うけど、最近“ひとりでも生きていけるけど、誰かがいたらもっと広がるよね”って思うですよ。誰かと一緒にじゃなきゃいけないわけじゃないけど、誰かと一緒にいたら、ひとりで生きていくよりもいろんな未来が待っているかもしれないとすごく思います。だから、人との出会いを大切にしたいし、出会いを楽しんでいるっていうのは、キャリアを重ねて気がつくようになるような振り絞った勇気を感じる歌声が印象的でした。

— May'n さんは活動していく中で価値観が変わるような出来事をたくさん経験されていると思いますが、ずっと変わらずに原動力になっているものって何だと思いますか?

「やっぱり好きっていうパワーですかね。好きなものや趣味から始まったものを仕事にする、趣味ではなくなくなってしまう、好きではなくなくなってしまうかもしれない、いろんな人が葛藤する部分だとは思いますが、私は好きだからこそ頑張りが続いていると実感しているので、この先どんなに悩むことがあっても好きな気持ちさえあれば乗り越え続けられると思っています。最初は歌が好きなのから始まったけど、ライブをするうちにワンマンライブも好きになったし、ファンの方と過ごしていく中で好きなものが増えていって、それが原動力につながっていると思いますね」

— そんな May'n さんにとってのキー

パーソンとなる人物は?

「自分の人生観が変わったという視点では、ヴォイストレーニングでお世話になった佐藤涼子先生です。佐藤先生と出会ったのは 2013 年で、私が喉を壊して休業をした時だったんですよ。そんな時に自分の引き出しを増やしていく大切さを教えてくれたのが先生で、私は歌へのこだわりが強かったから“May'n と言えばこれ”という軸が固まっていたんですけど、“引き出しを増やしておいて損はないんじゃない?”と言われて。“使うか使わないかはあなたの自由だけど、まずは増やしておいて、求められた時にパッと出せるものがあるのは必要なことよ”と教えていただいて、確かに今の自分にあるものを磨いていだけじゃなくて、増やしていく楽しさもあると気づかせてもらいました。あと、先生はよく“人間力を高めなさい”とおっしゃるんです。要は自分に正直になって自分を知りなさいと。先生と初めて会った時に、“May'n は優等生すぎて人間味が感じられないから、本当に何を思っているのかが分からない”と言われてたんですよ。“人には喜怒哀楽があって、いろいろムカつくことがあるはずなのに、あなたは全然出していないでしょ?”と。先生が“誰にも言わないから、最近あったムカついた話を全部教えて”とおっしゃったので、そこで初めてワーツと話した時に“May'n のムカつく話って超楽しい!”って言ってくださいました。人間として持つちゃいけない感情はあると思いますけど、先生に“ちょっとしたものはそうやって出していったほうが、もっと人間としての魅力が深まるのよ”と言われたのが、私にはすごく新鮮で。それまでは喜怒哀楽の喜と楽しさ考えていなかったけど、それからは全部に目を向けるようになりました。表に立って発信しないほうがいいことはあるけど、MC でも“ありがとう”とか“楽しかったよ”だけじゃなくて、“昨日はこんなことがあったんだけど、今日は楽しかった!”と素直に言うようになってからは音楽もさらに楽しくなったので、May'n の喜怒哀楽を引き出してくれた佐藤先生には本当に感謝しています」

取材: 千々和香苗



このインタビューの全文を公開中!! ▶



高野麻里佳

今、この世界を生きる私たちが、
どんな幸せを感じているのかを描いている

いつか高野麻里佳の音楽活動を象徴する一枚になると思う。そう確信してしまうほど3rd シングル「LOVE&MOON」には、誰もがイメージする“高野麻里佳らしさ”と、その柔らかな人柄が詰り込まれていた。そして、表題曲は「月が綺麗」というフレーズから連想されるように、日本特有の奥ゆかしさが感じられる。彼女が届けるさわやかで情緒豊かな楽曲に、この秋はぜひ酔いしれてほしい。

—今年2月に発売した1stアルバム『ひとつ』の取材から半年以上振りとなりましたが、改めてご自身で作品を再評価していただきたいです。
「当時は“挑戦”だと話していましたが、振

り返ると私にとって“冒険”の一枚だったと思います。本当にすごく冒険をしましたね。声優のお芝居と一緒に、高野麻里佳ではない誰かになりきって歌う感覚を持ちながら、自分の中の引き出しをたくさん

開けて表現した楽曲ばかりが集まったアルバムでした」

—自身の引き出しにはストックがもうない、以前もお話していましたが、その後、ストックは溜まりつつありますか？

「どうでしょう？(笑) そう言えば、今回の表題曲「LOVE&MOON」とカップリング曲「スマイル」は、どちらも“等身大の私”を歌うという点で似ていると感じたのですが、楽曲自体の雰囲気は全然違って。そこで、特定のジャンルの中でいろいろな表情の違いを極めるのも楽しそうだなと、たくさんのジャンルに挑戦した『ひとつ』を経たことで気づけたんです。だからこそ、私がアーティストデビュー当初から歌いたかった“人を笑顔にするグッドミュージック”も今後はたくさん歌ってきたい、そのジャンルの中で歌い分けも意識してみたいですね」

—なるほど。そして、今回のシングル表題曲「LOVE&MOON」はTVアニメ「勇者パーティーを追放されたビーストテイマー、最強種の猫耳少女と出会う」のエンディングテーマに起用されています。新曲はどのような内容になっているのでしょうか？

「「LOVE&MOON」は愛情や幸せを象徴するようなタイトルからも感じられるとおり、自分が持つ温かな気持ちを大切にしようと思った楽曲です。自分の内側に存在する自分を探するような歌でもあるのですが、実際にアニメの劇中でも主人公のレイが温かさを持つ人々と出会うことで心を豊かにしていくので、そのあたりもリンクしているのかなと」

—高野さんのお気に入りのフレーズは？
「どの部分も大好きですが、『ほんやり夜を見上げて／ああ、月が綺麗なんて』は日本人ならば心にグッときますよね」

—あの有名な小説家の顔が思い浮かびますよね。

「そうですね(笑)。“月が綺麗”だと言われると、きっとこの楽曲だけでなくいろいろなシーンであのお方を少しは意識してしまうと思うのですが。とはいえ、“月が綺麗”だと歌えること自体が嬉しいし、それを力強くではなく、さわやかに、ラフに歌わせてくれるところが、この楽曲のカッコ良さじゃないでしょうか」

—日本人だからこそ伝わる情緒がうまく活かされていますよね。本シングルの告知動画では“情熱的な楽曲”だとも解説していましたが、具体的に歌詞のどのあたりに情熱を感じられましたか？

「人生って情熱的じゃないですか。好きな物事を見つけて心が燃え上がったって、挫折してもなんとか立ち上がったって、私は「LOVE&MOON」に人生を歩む上での情熱が宿っている気がしています。歌いながら、生きている生の感覚や自分の幸せを実感したんですよね」

—金言ですね。では、レコーディングで苦戦した点はありますか？

「英語詞の部分の解釈ですかね。“これはきっと愛を伝えてるんだだろうな”などニュアンスとしては理解できて、それが本来的な意味として正しいのかまでは分からず。例えば、『Please Please Me 教えてよ』というサビのフレーズも、最初は“お願い”を2回繰り返して繰り返しているだけだと理解していません」

—えっ!? 違うんですか？
「調べたところ、ふたつめの“please”は動詞で“喜ばせる”…つまり、あの歌詞は“私を喜ばせてほしい”という意味で歌っているんですよ。そう知った時、歌詞自体も情緒深いし、何より英語にもひとつの言葉にさまざまな意味があって面白く、とても奥ゆかしいものだと感じました」

—日本語だけでなく、英語の奥深さもまとめて味わえる楽曲なんですね。改めて今回のアニメタイアップについて感じたことを教えてください。

「私自身は当初、“まさしくアンソング”な楽曲を歌うんだろうなと想像していたんです。でも、最終的にこの楽曲をアニメのエンディングテーマに選んでいただいたことで、あまり飾りすぎない自分でも認めて

もらえる場所があると気づけて。だからこそ、今回のタイアップはとても大きな意味のあるものだったと実感しました」

—カップリング曲「スマイル」は、なぜこのタイトルに？

「スマイルの花が咲いているという些細な出来事が、自分と大切な人の笑顔につながるという意味が込められているんです。タイトルは“SUMILE”と“SMILE”のダブルミーニングのようになっています」

—なるほど。歌詞には描かれていませんが、高野さんは何色のスマイルをイメージしましたか？

「私のイメージは完全に黄色でした。笑顔とか、人がハッピーな印象を受ける色って黄色だと思うので。あと、その黄色い花がひまわりなどではなく、スマイルなところにもまた慎ましい可愛さがあると思いましたね」

—楽曲制作時の印象深いエピソードはありますか？

「「スマイル」は当初、今の完成形よりもキーが1段階高く設定されていたんです。ただ、作詞家の山本メーコさんからレコーディングの際に、“キーを下けたほうが言葉の意味がストレートに届くかも”とアドバイスをいただいて。確かに、高いキーのほうがメロディーとしては綺麗な一方、言葉の芯の部分が届くのは低いほうだなと。このあたりのバランスはすごく苦戦しましたね」

—作詞家が歌唱面に助言をするのは意外ですね。

「私がみなさんにたくさん質問しちゃうからかな？(笑) 声優として歌を歌う際も言葉を大切にしたいという想いがありますし、客観的な意見もどんどん取り入れていきたいと考えているので、そうした作家さんとのやりとりもかかっています」

—ところで「LOVE&MOON」「スマイル」には“夢”や“世界”などのフレーズが双方に登場するほか、歌詞の内容にも共通点が多いように思います。今回のシングルにこの2曲を選んだのは高野さんご自身ですか？

「そうですね。ディレクターさんとも相談しつつ、私自身で最終的には楽曲同士の相

性も踏まえて決めました。この2曲は私の中で特別感を感じる部分がすごく似ているんですよ」

—特別感と言うと？
「大切な誰かと月を見て幸せを感じる「LOVE&MOON」と、自分の身の回りにある幸せを見つける「スマイル」。どちらもどこか空想の話ではなく、今、この世界を生きる私たちがどんな幸せを感じているのかを描いていることですね」

—初回限定盤には「LOVE&MOON」のMVも収録されていますね。

「今回はタイトルにある“MOON=月”を、あえて一切映さない映像になっています。というのも、月を見てどんな部分を綺麗に感じるのかが十人十色だと思ったんです。満月や欠けている月、もしかしたら誰かと見ている雰囲気惹かれるのかもしれない。そうした感性を目に見えるかたちで表現すると、逆に情緒がなくなってしまいそうだなと。なので、みなさんそれぞれ、自分の想う月を想像しながらご覧いただきたいですね」

取材：一条皓太



このインタビューの全文を公開中!▶



「LOVE&MOON」

Single 10/12 Release
日本コロムビア



【初回限定盤】
(CD+DVD)
COCC-1938～9
¥2,090(税込)



【通常盤】(CD)
COCC-18034
¥1,430(税込)

music UP's Q!

今月のお題：「あなたにとってのヒーローは？」

■姉

「子供の頃に川で溺れたことがあるんですけど、その時に助けてくれたのが姉でして。両親が近くにいない状況だったので、私は水泳が好きだから泳ぎたくて仕方なかったんですよ(笑)。溺れた時はもうダメだと思いましたが、姉がいてくれて本当に良かったです。姉がいなければ今の私はいないから、感謝の気持ちを本人に伝えたことがあったんですが、“そんなことあった？”と彼女は完全に忘れていましたね(笑)」

ハコニワリリイ

初アルバムがここまで豪華なんて本当に恵まれている

ある時は幼い子供、ある時は借金の取り立て屋、そしてまたある時は恋する学生に。HanonとKotohaによるハコニワリリイは、楽曲ごとに本当にさまざまな役柄になりきってしまう。YouTubeの「歌ってみた動画」などで経験を積んでいるとは言いつつ、どれほどの引き出しを持っているのか？ そんなユニットの強みについて、記念すべきメジャー1stアルバム『Lily's Plage』発売を機に、改めて本人たちに語ってもらった。

— 記念すべきメジャー1stアルバム『Lily's Plage』ですが、タイトルはどのように決まったのでしょうか？

Hanon: 待望の1stアルバムなので、せつかくならばユニットを象徴する百合(=リリイ)の名前を入れたいと。そこから私たちのリスナーさんの総称であるハコ船と絡めたものにしたのも考えて、「百合の浜辺を目指す」という全体コンセプトと「Plage」という言葉が決まりました。「Plage」には「浜辺」の他にもレコードの録音部分という意味もあるので、今回のアルバムをフィジカルリリースする意味にもしっくりかかっているんです。

Kotoha: 新曲8曲を含む全14曲を収

録したDISC1の他に、コンプリート盤のみのDISC2ではインディーズ時代の曲も14曲も聴けて。初アルバムがここまで豪華だなんて本当に恵まれていて、改めて幸せだと思います。

— 本インタビューではDISC1のみに焦点を絞ります。それでは新曲8曲について、まずは「夏、透明な青に惹かれて。」の第一印象は？

Hanon: この楽曲はすごく…好きだよねえ(しみじみ)。

Kotoha: 好き(笑)。今回は小さな子供になりきって、私たちふたりと幼馴染の子、全部で3人のストーリーが展開されるのですが、普段は男の子と女の子の恋愛ソ

ングを歌うことが多いので、かなり新鮮な役柄だと思いました。大切な子との友情を描くように、歌い方もやさしく、時に囁くようなテイストにして。

Hanon: ちょっとだけ大人への反抗心も見えつつね。私たち自身もその子をめがけて気持ちを作っていたから、これまで以上にシンクロした歌声を味わってもらえる一曲になったと思います。落ちサビの『忘れないで』の部分とか、ふたりで息感を合わせるように意識もしたし、個人的にもすごくお気に入りです。

— 続いては、今作の「推し曲」とリード曲「世界一の友人だったあなたへ」。これから告白する覚悟がひびひと伝わって

る、歌声のトーンを落とした一曲で。Hanon: この楽曲はいつもと違うフォークデュオ曲として、私たちの歌唱力を届けたいなと。実は3曲目「マサキじゃないけど好き」に登場するふたりの過去のエピソードを歌っているんです。

— なんと！タイトルから失恋の曲だと勘違いをしてしまいました。

Kotoha: (笑)。ちゃんとお互いが「大好き」で終わって良かったですよ。でも、確かにタイトルだけを見ると意味深だし、「そもそもし恋愛ソングで shouldn't?」と思ってしまうかも。

Hanon: なんか不穏だよ(笑)。

— そんな「不穏」つながりの流れで、Kotohaさんのソロ楽曲「ハサミガール」。

Hanon: 怖〜い(笑)。

Kotoha: 「ハサミガール」は彼氏に振り向いてもらえない乙女を歌った楽曲で、もうヤンデレです。台詞調の部分が多いのですが、レコーディングでは何度も録り直した上で「あ、今のすごく歌詞に合ってる!」と、珠玉のヤンデレ声を厳選していただきました。

— 一方のHanonさんが歌う「NEVER LAND」は、仮にTVアニメ「灼熱のハコニワリリイ」が何かのオープニングテーマでしょうか？

Hanon: いや…って、「灼熱のハコニワリリイ」ってどんな物語ですか! (笑) でも、本当に「ザ・アニソン」な一曲に仕上がっていますよね。

Kotoha: めっちゃカッコ良いと思う!

Hanon: 「NEVER LAND」は前向きなメッセージを込めた歌詞なので、いつかライブで披露する場面を想像しながらレコーディングに挑みましたね。もともと「ザ・アニソン」な楽曲が好きだったので、こうしたテイストの楽曲は自分自身に照らし合わせて、素の部分を出しながら歌えたと思います。

— アルバムにはそれぞれもう一曲、ソロ曲が用意されていますね。順にKotoha

さんの「どげざ」、Hanonさんの「ニゲルガガチ」と、「闇金ウシジマくん」の世界観と見間違えようのないゆるい「問題作」のゾーンが。「どげざ」のほうは土下座をする側ではなく、それを見下ろす側の楽曲でとても新鮮な視点でした。実際に歌っていかがでしたか？

Kotoha: すごく難しかった! (汚名返上)の部分とか、声をキュッと張り上げる表現をしたことがなかったので、仮音源を受け取った際に本当に不安だったんですよ。でも、レコーディング当日までものすごく練習を重ねたので、ディレクションをしてもらったGomさんに褒めていただけ。要所でのフェイクや独特な声の使い方など、普段はしない表現だったから歌っていて大変だったけど、すごく楽しかったです。

— Hanonさんがものすごく頷いてくれていますね。そんなHanonさんのほうは一転して、取り立て屋から逃亡している楽曲のようですが、歌詞には共感でしたか？

Hanon: 「ニゲルガガチ」に登場するフレズだと、「死ぬこと以外かすり傷」は自分としても持っておきたいメンタルだなと。私の友達が彼女の長所だと話してくれたことがあったので、その子のことを思い出したり。

— ユニット曲に話を戻して、7曲目「僕が最高だから」はボカロP・イチョウさんのプロデュースですね。本作で唯一、HoneyWorks 系列以外での参加クリエイターです。

Kotoha: イチョウさんのTikTokでバズっている曲を拝聴して、アルバムを作る際にぜひ楽曲を書き下ろしてほしいなと!

Hanon: ボカロ曲らしい耳に残るメロディーラインと、ちょっと特殊な歌詞が素敵だよ。今回はリスナーさん目線で「配信主」への恋心を歌っていて、どこかリアルなところもあり。でも、「今日も配信待

ちきれない(ね)」だったり、リスナーさんにこれだけ想ってもらえたら嬉しいけど、「僕が最高だから有名になる/必要ないでしょ」と言いきれるあたり、この子は強いわ(笑)。

— 最後はハコ船へのメッセージソングこと「君の一番になりたいの!」についてお願いします。

Hanon: この楽曲はユニットの等身大が描かれていて。実は私たちがSNSなどを通して、リスナーさんに発信してきた言葉をもとに歌詞が書かれているんです。2番の「小さくなんてないだよ/溢れる愛をいつもありがとう」なんてよく覚えていて。タイトルどおり、君の一番になりたい想いが本当に詰まっています。

Kotoha: 《夢の箱庭》って歌詞にユニット名が出てくるところも大好き!

Hanon: 私たちの楽曲だって実感できるよね。

取材: 一条皓太

OKMUSIC

このインタビューの全文を公開中!!



「Lily's Plage」

Album 9/28 Release
MusicRay'n



【コンプリート盤】
(2CD(トールサイズ)
+グッズ)
SMCL-782~4
¥4,950(税込)
※初回生産限定盤
※三方背ボックス入り



【通常盤】
(CD(ジュエルケース)
+グッズ)
SMCL-785
¥3,190(税込)
※初回仕様盤

music UP's Q!

今月のお題: 「あなたにとってのヒーローは?」

■ Hanon…Mrs. GREEN APPLE

「つらい時に彼らの楽曲に救われたことが多かったため、私にとってのヒーローはミセス(Mrs. GREEN APPLEの呼称)さんです。特に好きなのは「我達人」という曲ですね。他にも好きな曲はたくさんありますし、ライブもよく観に行っています。どこで流れていても一発でミセスだと分かるキャッチーなメロディと、メッセージ性が強い歌詞も大好きで、本当にすごいバンドですよ。私たちの楽曲もどこで聴いてもすぐに分かってもらえるように、これからも頑張っていきます!」

■ Kotoha…学生時代からの友達

「中学生の頃からずっと仲良しの女の子がいるんですけど、彼女には日常の小さな悩みから仕事のことまで、悩んだら何でも相談をしていて、何回も人生を救ってもらったから、私にとってはヒーローなんです。他の人には話せないことも彼女にだけ話せるし、いつも本当に感謝しています。でも、この気持ちを本人には伝えたいことがないんですけどね(笑)。この質問を聞いた時に一番に彼女が思い浮かんだので、恥ずかしいけどこの場を借りて感謝を伝えたいと思います!」

白井悠介

白井悠介がどんな人間なのかが、この一枚で分かる

『ヒプノシスマイク』シリーズの鮎村乱数役をはじめ、『A3!』や『アイドルマスター SideM』などの作品で人気を集める白井悠介の声優デビュー 11 周年を記念したアニバーサリーアルバム『11-ELEVEN』。代永翼、西山宏太郎、伊東健人の声優仲間 3 人が参加したショートドラマやオリジナル曲を収録した本作の制作エピソードはもちろん、11 周年を迎えた気持ちについても語ってもらった。

— 声優デビュー 11 周年で“11-ELEVEN”というタイトルは、サッカー好きの白井さんならではのですね。

「サッカーは 11 人でやるスポーツですからね。本当は 10 周年のほうがキリが良かったのですが、タイミングが合わず 11 周年になり、結果的に僕らしいアニバーサ

リーになりました」

— こういう周年でアニバーサリーアルバムを出すことについてはどんな気持ちですか？

「最初は全然想像できなかったです。そもそもアーティスト活動をしているわけでもないし。でも、自分の節目をこういうか

たちで残すのもありなんじゃないかと思いましたね。作って良かったとすごく思います」

— ショートドラマを主体にオリジナル曲も 3 曲収録していますが、こういった構成や内容は白井さんを中心に話し合っただけですか？

「そうですね。アルバムを出すことが決まった段階で、どういう構成にするのかスタッフさんとお話をさせていただきました。僕はあまり自信がないというか、得意と思っていないので、歌はそんなに多くなくていいと思っていて。なので、ショートドラマの割合を多くして、演劇ユニット『SUGARBOY』の主宰や『AD-LIVE』など舞台演出や脚本も手がけている川尻恵太さんに、僕の半生を面白おかしく物語にしてもらいました。そのショートドラマの合間に、その時期の自分のことや想いが表現された楽曲が流れるという構成です。白井悠介がどんな人間なのかが、この一枚で分かっていたらいいと思います」

— 全曲の作詞は松井洋平さんで、ちなみに「Only My Story」を作曲した山口慎太郎さんはご友人だそうですね。

「そうですね。アルバイト時代の同僚で、当時から彼は音楽活動をやっていて、“将来は僕の出ている作品で曲を作ってよ！”と冗談交じりで話していたことが叶いました」

— そういつつながりのある仲間と、11 周年のタイミングで一緒に作品を作れたのは記念になりましたね。

「すごく嬉しいです。人とのつながりの大切さやありがたさを感じますね」

— レコーディングはいかがでしたか？

「『Only My Story』は録る前にヴォイストレーナーの方に声出しのレッスンをしてもらいまして、そのおかげでとても伸び伸びと歌えました。声が出しやすい完全な状態でレコーディングできて、今まで味わったことのない気持ち良さを感じましたね。

作曲してくれた山口くんがディレクションしてくれたのもあって、リラックスしてレコーディングに臨めました。今までキャラクターソングも歌ったことがありますし、自分の YouTube チャンネルで歌ったりもしていますが、こういう自分のオリジナル曲がパッケージ化されるのは、どこかむず痒い感じがありますけど、すごく刺激になりました」

— 歌詞はショートドラマの内容も含めて、白井さんの子供の頃に目に浮かびました。

「小さい頃はわんぱくで、両親に心配ばかりかけていました(笑)」

— 「Youthful Graffiti」はキラキラとした EDM サウンドが印象的でした。

「“さわやかな青春”という印象の曲です。朝の出勤や通学の時など、気分をアゲたい時にぜひ聴いてほしいですね」

— 各曲について“こういう曲や歌詞がいい”と白井さんから提案したのですか？

「内容については自分から言っていないんですが、3 曲ともジャンルの違う曲調がいいという話はさせていただきました。どの曲も雰囲気が違うし、ショートドラマからの流れで自然に聴けるんですけど、歌詞的に貫いているのは白井悠介の考え方だったり生き方が表現されている点で、そこは松井さんが見事に表現してくださりました」

— 「ツバメと風」ではラップも披露しています。

「もともとラップが好きで、『ヒプノシスマイク』にかかわる前からカラオケでラップの曲を歌ったりしていたんです。それを自分名義で歌えたのはありがたいし、嬉しかったです」

— 歌詞はこの先も含めた人生観を歌っていますね。

「このアルバムではエンディング的な立ち位置になっていますけど、これまでの人生や思い出を振り返りつつ、希望に満ちた未来に向かって飛んでいこうという前向きな楽曲で。曲調としては少し落ち着いたんですが、ポジティブなメッセージが話

まっています」

— 今回の楽曲を生で披露する機会というの？

「発売記念イベントもありますし、ちょっと先の話ですけど、来年の 3 月に今回参加してくれた声優の 3 人をゲストに迎えたトーク&ミニライブのスペシャルイベントもあります」

— ショートドラマに出演した代永翼さん、西山宏太郎さん、伊東健人さんですね。この 3 人は白井さんにとってどんな存在ですか？

「一緒にいて楽な人たちです(笑)。代永さんは年上で先輩ですが、変に気を使わないでいられるし、上下関係を感じさせないくらいやさしくて気さくで。宏太郎はふたりでいて無言でも平気なくらいです。沈黙って本来はあまり好きじゃないんですけど、宏太郎なら全然気にならないです。自然体でいられます。健人は『Only My Story』を作曲してくれた山口くんがアルバイトしていたところのバイト仲間でもあるんです。3 人への実際のオファーはスタッフさんにお任せしたのですが、候補を出したのは僕で、“絶対に断らないだろうな”という 3 人を挙げさせていただきました(笑)」

— ショートドラマの収録はどんな感じでしたか？

「『誕生』や『白井兄弟ラジオミステリー』などでは僕の両親や兄弟の役を演じてもらったんで、それに関しては僕がディレクションさせていただいたんです。“うちのお母さんはそういう言い方はしないので、もうちょっと柔らかくお願いします”とか。「アサリの気持ち」はすごく伸び伸びとやっている様子が伝わってくるんじゃないかと思いますね(笑)」

— 「アサリの気持ち」はシュールで面白かったです。

「実話ではあるんですけど、なんでそこをクローズアップしたのかは僕も謎です。そこが川尻さんのセンスだなって」

— 最後の「イースト&ウエストホワイトウイング」では白井さんが 50 歳になら

れていましたか？

「はい(笑)。まずタイトルは、伊東、西山、白井、翼という僕らの名前を英語にただけて、収録当日にその場で僕が適当に考えてつけました(笑)。内容は“もしもの話”みたいな感じで、その頃にはリバプールに移住したいという夢が叶っていたらいいなと」

— 今はリモートでも収録ができますから、リバプールに住みながら声優もできますね。

「リモートの技術がもっと発達して、アフレコスタジオでなくても遜色ないクオリティーでできるのであれば、今すぐでもリバプールに住みたいです！ その前に、英語を勉強しなきゃいけないですけど」

取材：榊林史章

OKMUSIC

このインタビューの全文を公開中!!▶



『11-ELEVEN-』

Album 9/21 Release
PONY CANYON



【初回限定盤】
(2CD+Blu-ray)
PCCG-02177
¥4,950(税込)



【通常盤】(2CD)
PCCG-02178
¥3,850(税込)



【きゃにめ限定盤】
(2CD+Blu-ray)
SCCG-00109
¥6,050(税込)

music UP5 a!

今月のお題：『あなたにとってのヒーローは？』

■クルゲン・クロップ

「僕はリヴァプール FC の大ファンでして、その監督がクルゲン・クロップなんですね。今、就任 7 年目のかな？ リヴァプール FC はイングランドのプレミアリーグで強豪というが古豪で、非常に歴史のあるクラブなんですけど、30 年以上もリーグ優勝ができていなかったんですよ。でも、クルゲン・クロップが監督に就任してから再び強くなって、30 年振りにリーグ優勝して、さらにヨーロッパの上位チームが参加するチャンピオンズリーグでも優勝を果たしたんです。なので、もちろん選手ひとりひとりもヒーローではあるんですけど、その選手であり、チームをまとめた一番の功労者は監督だと思うので、僕がファンを代表しましてクルゲン・クロップをヒーローに指名したいと思います！」

牧野由依

音楽でファンのみなさんとまたつながれる作品を作りたい

声優、シンガーソングライター、ピアニストなどマルチに活動する牧野由依がミニアルバム『あなたとわたしを繋ぐもの』をリリース。つながりや縁をテーマに、敬愛するアーティストの新居昭乃やさかいゆうをはじめ、「もうひとりの父」と語る岩井俊二などのクリエイターが制作に参加している。今という時代を映しながら自身のさまざまな経験も反映した、未来を感じさせる作品となった。

— 今回のミニアルバムを作るにあたり、テーマにしたことは何ですか？

「昨年12月にリリースしたシングル『エスペロ』が映画『ARIA The BENEDIZIONE』の主題歌で、『ARIA』というシリーズと久しぶりに再会できたことや、デビューさせていただいたレーベルであるフライングドッグさんから再びリリースさせていただけたことなど、再会やご縁というものをを感じる日々を過ごしてきています。そうした中で、今回のミニアルバムはファンの方やお世話になった作家の方など、全ての縁をつないでいけるようなものにした、音楽でファンのみなさんとまたつながれる作品を作りたいという想いから制作がスタートしました」

— 「幸せのメロディ」は作曲編曲を北川勝利さん、作詞を北川さん、藤村鼓乃

美さんが担当されていて、北川さんはアニメ『ARIA』シリーズの楽曲も多数手がけているので、まさに『ARIA』つながりですね。

「はい。北川さんは私が歌った『ARIA』第1期の挿入歌「シンフォニー」(2005年10月発表のシングル「ウンディーネ」収録曲)を作っていたいただいたこともあり、久しぶりに一緒にできて嬉しかったですね」

— 北川さんらしいポップな楽曲で、日常のふとしたところに幸せが転がっていることを歌っていますね。

「北川さんには“ライブの最後に歌うような雰囲気曲の曲で”とお願いをしました。レコーディングの時に話をうかがったら、今はライブでお客様が声を出せないけど、いつかみんなでこんなふうに歌いたいとイメージが膨らんだそうです」

— それが『ラララ』と歌っているコーラスですね。

「そうですね。まさしく幸せのメロディーだと思います。今まで日常的にできていたことが、突然できない状況になって、改めて当たり前じゃなかったと気づく…そういう身近にある幸せというものを、この曲で表現していただきました」

— 「Tale of Blue」は作詞作曲を新居昭乃さんが担当されていますが、新居さんと初対面だったそうですね。

「はい。アニメ『ARIA』の第3期で昭乃さんがエンディングテーマ「金の波 千の波」と「鳥かごの夢」を担当していたつながりもあり、昭乃さんの楽曲や今回の「Tale of Blue」を編曲してくださった保刈久明さんともいろんな作品で間接的なつながりがあったので、無理を承知でオファーさ

せていただいたところ、とても素敵な楽曲を提供していただきました」

— 神秘的な楽曲に牧野さんのウィスパーなヴォーカルがびびったりだと思いました。新居さんからもああいうウィスパー系のディレクションがあったのですか？

「あれは自分の中から自然と出てきたものです。事前の打ち合わせの時に、“北欧の森で朝もやがかかっているような雰囲気曲を書いていただきたい”とお願いをさせてもらったのですが、実はその時から“こんなふうに歌いたい”というイメージが自分の中にあっただと思います。その時は自覚していませんでしたが、きっと心のどこかにあって、それがレコーディングの時に具現化されてああいう歌になったというかな」

— ピアノは牧野さんご自身で弾かれていますそうですね。

「はい。演奏している時は緊張しないんですけど、“こんな感じでどうでしょうか？”と訊いて返事がくるまでは、死にそうなくらい緊張しました。生きた心地がしなかったです(笑)。でも、“すごくいい感じですよ”と言ってくれたので、本当に嬉しかったです」

— 「私と世界」は作詞が森雪之丞さん、作曲がさかいゆうさん、編曲は富田恵一(富田ラボ)さんというとても豪華なメンバーですね。

「この制作にあたって、もしお願いできるとしたらどんなアーティストがいいか、本当に夢の話をしたいところで、さかいゆうさんのお名前を挙げさせていただいたんです。雪之丞さんと富田さんは、さかいさんつながりなんですけど、雪之丞さんはプライベートでちょっとご縁があって、歌詞を提供していただくのは初めてでしたが、親近感を勝手に感じていました」

— ネオシティポップといったサウンドの楽曲で、歌詞の舞台が東京、ロンドン、ニューヨークととんとん変わるの面白いですね。

「歌詞には東京が夕方(5時)、ロンドン

は午前9時、ニューヨークが午前4時と出てくるんですけど、歌詞をもらってすぐにスマホの世界時計で時差を確認して、“ちゃんと合ってる！”と思って感動しました。歌詞の中で、同じ時をちゃんと刻んでいるんだなって」

— そして、ラストの「世界でいちばん愛しい音」は牧野さんご自身が作曲を担当していますが、やはりご出産を経験されたことで生まれた楽曲なのですか？

「出産する前から何曲か書いていたんですけど、“出産後に書くときまた違った曲ができるかもよ”というディレクターさんの助言もあって。出産後、子供を抱っこしてあやしなげに鼻歌で歌ったりなどして作っていきました。あとから自分で聴いてみて、確かにそれ以前に作ったものとは変わったと思いますね。明るくなったというかな、やさしくなれたというかな。そういう雰囲気、この曲にはあるかなって」

— 作詞を映画監督の岩井俊二さんをお願いした理由というのは？

「岩井監督は私が8歳の時からずっとお世話になっていて、今の事務所に入ったのも岩井さんからのご紹介ですし、私の人生に寄り添ってくださっていて、ある意味で父親的な存在というかな、ずっと成長を見てくださっている方なんです。自分が命をつなぐという経験をした時、小さい時から見てきてくださった岩井さんの世界観で歌ってみたいと思ったんです。それで、子供を産んで命が繋がっていく不思議だったり、そういうことを感じたという話を岩井さんにさせていただいたら、こういう歌詞を書いてくださいました。それを読んで“こう歌いたい”と新たなインスピレーションが湧いたのもあって、レコーディングの前々日に急遽メロディを一部変更したりということもありましたね」

— 「世界でいちばん愛しい音」というタイトルは牧野さんが考えられたそうですね。その音とは歌詞に出てくる〈天使の 小さな 寝息〉のことですか？

「イメージは鼓動だったんですよ。あまり説明するのもあれですけど、音源をよく聴くとちょっと鼓動っぽい音が聴こえると思います。妊娠中、子供の存在をちゃんと確認できるのがエコー検査での心音だったんです。“ああ、本当にいるんだな”と思って。でも、検診って月に一回なので、それまでの間はちゃんと生きていてくれるか、本当に不安でしょうがないんですよ。そんな時に主人と話していて、“こんなに人の心音にフィーチャーした経験って今までの人生でなかったよね”と。そんなこの曲も含めて、本当にいろいろなものにつながっていると感じていただけるアルバムになったんじゃないかなと思います」

取材：榎林史章



このインタビューの全文を公開中!!▶



「あなたとわたしを繋ぐもの」

Mini Album 10/5 Release
FlyingDog



【初回限定盤 A】
(CD+Blu-ray)
VTZL-215
¥4,400(税込)



【初回限定盤 B】
(CD+Photo Book)
VTZL-216
¥3,740(税込)



【通常盤】(CD)
VTCL-60565
¥2,750(税込)

music UP&α!

今月のお題：「あなたにとってのヒーローは？」

■母

「“ヒーロー”って男性を想像しがちだと思うんですけど、私にとってのヒーローは母ですね。いわゆる母親的なやさしさもあり…うちは父がとっちゃん坊や的な存在だったので(笑)、母が“母親であり、父親でもある”みたいな感じだったんです。働いていたんですが、仕事をやればやっただ、いつの間にかしれどと昇格している人だったから、それはもうヒーローになって。まあ、大人になってから思ったんですけど、子供の頃は“まあお惣菜かー。今日も晩飯を作ってくれないんだ”ってずっと思っていたけど、いざ自分が大人になって、結婚して、子供も生まれてってなったら、むちゃくちゃすごいことをしていたんだなって。そんな母だから仕事に対する責任感も持たせてくれたというかな。岩井俊二監督の『Love Letter』という映画の劇中でピアノを弾かせていただく時、レコーディング当日に怖くなってしまって、“行くの嫌だ”って駄々をこねて泣いたことがあったんです。そしてら母に“仕事なんだからちゃんとしなさい！”と言われて、たくさん大人の方たちが自分のために時間を作ってくれているって、その時に母から教わりました」



内田雄馬

これからの未来に挑戦し続けるポジティブなパワーを届けたい

30歳の誕生日を迎える9月21日に10th シングル「Congrats!!」がリリースされる。その表題曲はゲストヴォーカルとして親交のある声優6人が参加し、豪華な楽曲に仕上がっている。30歳を迎える心境や楽曲に込めた想い、参加声優との友情、日本武道館に向けた想いなどを訊いた。

—30歳の誕生日にニューシングルをリリースしますが、30歳になるにあたってどんなお気持ちですか？

「まだ実感がありません。25歳くらいの時は大人になる節目だし、「30歳までにはあれがしたい」とかいろいろ思っていたんですけど、いざ30歳を目前にすると何かが変わるような感じがあまりなくて。でも、20代で最強レベルだった29歳から30歳になって、また0レベルから出発できるということ、レベル上げの楽しさという意味でのワクワク感があります」

—30代の心構えとか、先輩から参考意見を聞いたりしましたか？

「20代も楽しいけど、30歳を過ぎてからがまた楽しいよ」という話はよく聞きました。あと、「30歳を過ぎると痩せづらくなる」とか(笑)。だから、20代のうちに鍛えたほうがいいって、もう5年くらい前から言われています。仕事のことで言うと、

男の声帯は30歳で完成すると言われていて、声優を始める前に音楽の先生から聞きました。歌手も歳を重ねたほうが味や深みが増し、音域や音程も安定するそうです。それに、単純に人間として経験を積むことで言葉に説得力が生まれるので、そのぶんやれる役の幅が広がると思っています。そういう意味では、自分の今後がすごく楽しみです」

—今作のタイトルの「Congrats!!」は「おめでとう」を意味する口語ですけど、自分で「おめでとう!」と言っちゃうという。

「まあ、そこはそういうユーモアということ(笑)。どちらかと言うと、ここまで迎えたことに対してや、これから迎える新しい未来に対して「おめでとう」と歌っている感じです。今の時代は未来が見えなかったり不安が大きくなっているけど、ポジティブに音楽を届けることや挑戦することを続けたいし、30歳はゴールではなく通過

点で、その先にもっとすごい未来が待っていると信じています。これからの未来に挑戦し続けるポジティブなパワーをみんなにも届けたいと思って、このタイトルをつけました」

—表題曲「Congrats!!(with Friends)」には、石川界人さん、榎本淳弥さん、斉藤壮馬さん、昌中 祐さん、花江夏樹さん、八代 拓さんが参加していますが、その経緯というのは？

「内田雄馬らしさとは何か？」と考えた時、それは周りと調和していけることだと思ったので、それをすぐ近くで見せていたり、一緒に作品を作ってくれている仲間とともに楽曲を作りたいと思ってお声がけさせていただきました。自分の楽曲に声優の仲間が参加してくれるのは初めてのことで、本当にありがたいし、すごいことだと思っています」

—榎木さんは昨年の幕張メッセのライブで流れた幕間の映像で、一緒にドライブをしていましたね。

「榎木くんはここ3〜4年くらい、ずっと一緒にいるイメージです。共演する作品数がかく多くて。界人くんとは僕がデビューした2013年に先輩からの紹介で会って、そこからずっと一緒にいますね。彼がいなかったら今の自分はいないと思うほど、内田雄馬を作ってくれた大切な友人です。壮馬さんと祐は、ずっと音楽の作品と一緒に活動しているし、ふたりともソロで音楽活動をやっているのもあって、現場で一緒にいるたび「いつか一緒にやりたいね」と話をしていました。花江さんは先輩ですけど、僕的にはめちゃめちゃ友達です(笑)。一緒にゲームもするし、サウナにも行ったり。共演している作品も多く、音楽の作品ではコンビで歌ったりもしていて、公私にわたって仲の良い先輩であり友達です。祐は同じ年で、同じ年にデビューしてからずっと一緒に戦ってきました。仕事のことはもちろんプライベートについても、お互いが悩んでいた時期は仕事の相談に乗り合ったりして、朝までファミレスで語り合ったこともありましたね」

—結構アツいですね。
「この6人はそういうところがありますね。みんなデビュー当時からお世話になっていて、内田雄馬の歴史の中で間違いなく欠かせない人たちです」

—6人に声をかけた時、どんな反応でした？

「みんな、すぐに「いいよ」って。直接僕から会いに行って、オファーさせていただいた方もいます。本当に嬉しかったし、その時点で絶対にいい曲になると確信しました。でも、すごく緊張しましたよ」

—なぜ緊張を？

「遊びに誘うのとはわけが違いますから。もちろん事務所やレーベルを通してオファーをさせていただきつつ、自分の言葉でも伝えられる機会のある方にはちゃんとお話をしよう。自分の気持ちをしっかり伝えないといけないけど、僕は自分の気持を人に話すのが得意なほうではないのでキドキでした」

—楽曲自体はどんなイメージで制作しましたか？

「すごくポップな楽曲なんですけど、1stシングル「NEW WORLD」(2018年5月発表)の続編というか、新たな「NEW WORLD」を作ろうという想いで、あえて「NEW WORLD」っぽさを踏襲しています。なので、作詞作曲はSHOWさんと編曲はDirty Orangeさんという「NEW WORLD」と同じ布陣で制作していただきました。抜けるような爽快感とか、一曲の中で違うタイプの曲調をくっつけるとか、そういう遊びは「NEW WORLD」の時もやってたんですけど、今回もいろいろ試しながら作っていただきました」

—歌詞に「互いの背中追って 駆けた」や「補えば最強で最高の bro」とか出てきて、with Friendsのみなさんとの関係性が感じられます。

「そうですね。「僕から見たみんな」という部分が大きいですけど。誰かと一緒に何かを作ることはすごく力になるので、そうやってここまで歩いてこれたんだという、内田雄馬の歩き方じゃないけど、みんなに向けた感謝と未来への期待を込めたメッセージになればと思って書いていただきました」

—誰かどこを歌うかも気になります。

「これは結構考えましたね。どれくらい歌ってもらえるかも含めて、プロデューサーと一緒にすごく考えました。みなさんが実際に聴いて、確かめてほしいです。祐からはレコーディング後にすぐ連絡をもらって、「すごく楽しかった」と言ってくれたので、「ああ、良かった〜」って安心しました(笑)」

—そして、11月には日本武道館公演が。「Gratz! / your world, our world」というタイトルですが、どんなライブにしたいですか？

「2日間で内容が違って、1日目の「Gratz!」はみんなでエンジョイするパーティーのようなライブにしたいと思っています。2日目は「your world, our world」ということで、メッセージを込めて、「これから未来に向かっていこう！」という想いを発信したいと思っています」

—「your world, our world」はデビュー曲「NEW WORLD」にもかかっているのですか？

「内田雄馬は今までずっと新しい世界へ行こう」と発信してきましたが、その新しい世界は僕だけで作るわけではありません。僕の音楽はあくまでもきっかけにすぎず、みなさんが自分の手、足、目、耳でつけてきた世界だと思っています。11月の日本武道館ではみんなが見つけてきた世界と僕が見つけてきた世界をひとつに混ぜて、そこからまた新しい世界や未来に向けてつなげられるようなライブにできたらいいなと思っています」

取材：榊林史明



このインタビューの全文を公開中!!

「Congrats!!」

Single 9/21 Release
KING RECORDS



【完全生産限定盤】
(CD+DVD)
KICM-92116
¥3,850(税込)



【通常盤】(CD)
KICM-2116
¥1,650(税込)

「YUMA UCHIDA LIVE 2022 「Gratz! / your world, our world」

・DAY1: Gratz!
11/12(土) 東京・日本武道館
・DAY2: your world, our world
11/13(日) 東京・日本武道館

music UPs a!

今月のお題:「あなたにとってのヒーローは?」

■お父ちゃん

「最近、誰かとの話をしたんですよ。で、やっぱりお父ちゃんじゃないかっていう結論になったんですよ。子供の頃、父親ってスーパーマンに見えていたじゃないですか。僕の場合は…例えば一緒に車に乗って出かけるとか、新しいゲームを買ってくれたりとか、何か特別なことをやってくれて。うちの父親はオタク気質だったんで、家電を集めるのが好きだったりもして、いきなり新商品を買ってきたり(笑)。だから、父親がいると安心というか、楽しいというか、そういう意味で自分にとってのヒーローだと思いますね。いつか自分が父親になった時、子供にヒーローだと思ってもらえるお父ちゃんになりたいです」



内田雄馬

Interview … 牧野由依 白井悠介 ハコニワリリィ 高野麻里佳 May'n

Editor's Talk Session … 『音楽シーンのために裏方ができること』

music UP's Q! … 『あなたにとってのヒーローは?』